

景気動向調査結果

(令和8年4月分)

長野県産業労働部

この調査は、県内企業 700 社（製造業 300 社（うちヒアリング 65 社）、非製造業 400 社（建設業、情報サービス業、小売業、卸売業、飲食業、宿泊業））を対象に、令和 8 年 4 月末の状況（前年同期、3 か月前と比較した状況、3 か月後の状況予想）について、令和 8 年 5 月にヒアリング又は書面により行ったものです。

なお、平成 23 年度の調査から、従来の「製造業」に、「非製造業」（建設業、情報サービス業、小売業、卸売業、飲食業、宿泊業）も加えて実施しています。

また、平成 26 年度の調査から、非製造業の調査対象企業数を従来の 600 社から 400 社に変更し、平成 29 年度の調査から、小売業と卸売業、飲食業と宿泊業を分けて結果を発表しています。

回答企業数は、409 社（製造業 206 社（うちヒアリング 65 社）、非製造業 203 社）で、回答率は 58.4 パーセントでした。

※調査結果の概要は、インターネットで御覧になれます。

<http://www.pref.nagano.lg.jp/sansei/sangyo/shokogyo/toukei/kekka/index.html>

お問い合わせ先：製造業について

長野県産業労働部産業政策課（TEL 026-232-0111 内線 2925）

非製造業について

長野県産業労働部経営・創業支援課（TEL 026-232-0111 内線 2957）

令和8年4月の景気動向

1 総論

長野県経済は、中東情勢の影響等に伴うエネルギー・原材料価格高騰等により依然として厳しい状況が続いているものの、一部で持ち直しの動きがみられます。

製造業の業況は、自動車関連の受注、生産が低調に推移した一方、電機・電子や一般機械でAI向け半導体関連の受注、生産が増加しました。また精密等その他の業種が好調に推移していることから、全体では16期ぶりにプラス水準となりました。

非製造業の業況は、国内客を中心とした観光需要が底堅く推移していることや、DX化、省力化に向けたIT投資需要が堅調であることなどを背景に、宿泊業、情報サービス業でプラス水準となりました。一方で、中東情勢の影響による物価高騰等を背景に、原材料費やエネルギーコスト、人件費の上昇による経費増加が続き、建設業、卸売業、飲食業で業況が悪化し、非製造業全体では4期連続でマイナス水準となりました。

2 製造業

(1) 業界の業況

前年同期（令和7年4月）と比較したDI（業況が「好転」とする企業の割合から「悪化」とする企業の割合を引いた差）は8.8となり、前回調査時（令和8年1月）の△10.9より19.7ポイント改善しました。

3か月前（令和8年1月）と比較したDIは6.9となり、前回調査時の△8.4より15.3ポイント改善し、18期ぶりのプラス水準となりました。

3か月後（令和8年7月）の予想では、DIは△10.8となり、17期連続のマイナス水準となりました。

〔主な業種の動き〕

ア 電機・電子では、パソコンは新年度移行による需要増により、受注、生産が増加しています。プリンターは受注、生産が堅調に推移しています。

半導体関連は、AI向けの受注、生産が好調に推移し、他分野についても在庫の解消、需要が持ち直しています。抵抗器・コンデンサ等は、受注、生産が自動車関連向けは一服感がみられる一方、情報通信向け、産業機械向けで持ち直しが見られます。

モーター等は、産業用途では半導体関係の設備投資に増加がみられ、受注、生産に増加がみられます。

イ 一般機械では、工作機械は、自動車向けは受注、生産が低調に推移している一方で、半導体関連は、AI向けで受注、生産が持ち直しています。金型は、自動車関連向けで、受注、生産に一服感がみられます。建設機械は国内向けの需要が減少した一方で、海外向け需要が好調であることから、生産・販売が堅調に推移しています。

ウ 精密では、時計は、受注、生産は好調に推移しています。レンズは、受注、生産が弱含んでいます。圧力計は、半導体関連の在庫の解消が進み、受注に持ち直しがみられます。水道・LPガスメーターは、春季の取替工事の需要増により、受注、生産に持ち直しがみられます。

エ 自動車部品は、EV化の鈍化等により受注、生産が低調に推移しています。

オ 味そは、季節的要因により、受注、生産が低調に推移しています。酒類は、ワインは春先の需要増により受注、生産が増加した一方で、業界全体としては、物価高騰による消費マインドの落ち込みにより、受注、生産が低調に推移しています。飲料は、季節的要因などにより、受注、生産に持ち直しがみられます。

(2)受注引合

前年同期比では、「増加」とする企業が42.9%と前回(28.1%)より増加し、「減少」とする企業が23.9%と前回(31.3%)より減少した結果、D Iは前回(△3.2)より改善し、19.0となりました。

3ヵ月前との比較では、「増加」とする企業が39.0%と前回(19.9%)より増加し、「減少」とする企業が18.0%と前回(29.3%)より増加した結果、D Iは前回(△9.4)より改善し、21.0となりました。

3か月後の予想については、「増加」とする企業は18.7%、「減少」とする企業が△24.1%となった結果、D Iは△5.4となりました。

(3)生産量

前年同期比では、「増加」とする企業が40.0%と前回(28.6%)より増加し、「減少」とする企業が25.9%と前回(33.3%)と減少した結果、D Iは前回(△4.7)より改善し、14.1となりました。

3か月前との比較では、「増加」とする企業が32.8%と前回(19.9%)より増加し、「減少」とする企業が18.1%と前回(28.3%)より減少した結果、D Iは前回(△8.4)より改善し、14.7となりました。

3か月後の予想については、「増加」とする企業22.8%、「減少」とする企業が28.7%となった結果、D Iは△5.9となりました。

(4)製品販売価格

前年同期比では、「高い」とする企業が51.7%と前回(42.2%)より増加し、「安い」とする企業が2.0%と前回(3.1%)より減少した結果、D Iは前回(38.4)より改善し、49.7となりました。

3か月前との比較では、「高い」とする企業が27.8%と前回(18.8%)より増加し、「安い」とする企業が1.0%と前回(1.0%)と同じだった結果、D Iは前回(10.9)より改善し、26.8となりました。

3か月後の予想については、「高い」とする企業が29.6%、「安い」とする企業が3.0%となった結果、D Iは26.6となりました。

(5)資金繰り

前年同期比では、「らく」とする企業が11.6%と前回(6.4%)より増加し、「苦しい」とする企業が15.1%と前回(19.3%)より減少した結果、D Iは前回(△12.9)より改善し、△3.5となりました。

3か月前との比較では、「らく」とする企業が7.6%と前回(3.2%)より増加し、「苦しい」とする企業が11.6%と前回(15.6%)より減少した結果、D Iは前回(△12.4)より改善し、△4.0となりました。

3か月後の予想については、「らく」とする企業が4.6%、「苦しい」とする企業が15.7%となった結果、D Iは△11.1となりました。

(6)収益率

前年同期比では、「上昇」とする企業が26.8%と前回(24.5%)より増加し、「低下」とする企業が36.6%と前回(35.9%)より増加した結果、D Iは前回(△11.4)より改善し、△9.8となりました。

3か月前との比較では、「上昇」とする企業が19.0%と前回(11.5%)より増加し、「低下」とする企業が29.8%と前回(26.2%)より増加した結果、D Iは前回(△14.7)より改善し、△10.8となりました。

3か月後の予想については、「上昇」とする企業が11.8%、「低下」とする企業が30.0%となった結果、D Iは△18.2となりました。

(7) 製造業の業種別動向

電機・電子

(コンピュータ・情報機器) パソコンは新年度移行による需要増により、受注、生産が増加しています。プリンターは受注、生産が堅調に推移しています。

(半導体関連・プリント基板) 半導体関連は、AI向けの受注、生産が好調に推移し、他分野についても在庫の解消、需要が持ち直しています。

(抵抗器・コンデンサ等) 抵抗器・コンデンサ等は、受注、生産が自動車関連向けは一服感がみられる一方、情報通信向け、産業機械向けで持ち直しが見られます。

(モーター等) モーター等は、産業用途では半導体関係の設備投資に増加がみられ、受注、生産に増加がみられます。

(その他) 車載部品はEV化の鈍化により、受注、生産が低調に推移しています。

一般機械

(工作機械) 工作機械は、自動車向けは受注、生産が低調に推移している一方で、半導体関連は、AI向けで受注、生産が持ち直しています。

(金型) 金型は自動車関連向けで、受注、生産に一服感がみられません。

(建設機械) 建設機械は国内向けの需要が減少した一方で、海外向け需要が好調であることから、生産・販売が堅調に推移しています。

(農業用機械等) 農業用機械は、稲作関係が好調である一方で、酪農・畜産関係の受注・生産が低調に推移しています。

精 密

(時 計) 時計は、受注、生産は好調に推移しています。

(レ ン ズ) レンズは、受注、生産が弱含んでいます。

(計 器) 圧力計は、半導体関連の在庫の解消が進み、受注に持ち直しがみられます。水道・LPガスメーターは、春季の取替工事の需要増により受注、生産に持ち直しがみられます。

自 動 車 部 品

自動車部品はEV化の鈍化等により受注、生産が低調に推移しています。

食 料 品

(味 そ) 味そは、季節的要因により受注、生産が低調に推移しています。

(酒 類) 酒類は、ワインは春先の需要増により受注、生産が増加した一方で、業界全体としては、物価高騰による消費マインドの落ち込みにより、受注、生産が低調に推移しています。

(飲 料) 飲料は、季節的要因などにより、受注、生産に持ち直しがみられます。

織 維 ・ 衣 服

繊維・衣服は、季節的要因により、受注、販売が増加しています。

紙 ・ パ ル プ

ダンボールは、値上げ前の駆け込み需要により、受注、生産が増加しています。

印 刷

印刷は、季節的要因により、受注、生産が増加しているものの、印刷・製本の需要の低迷などにより、引き続き低調に推移しています。

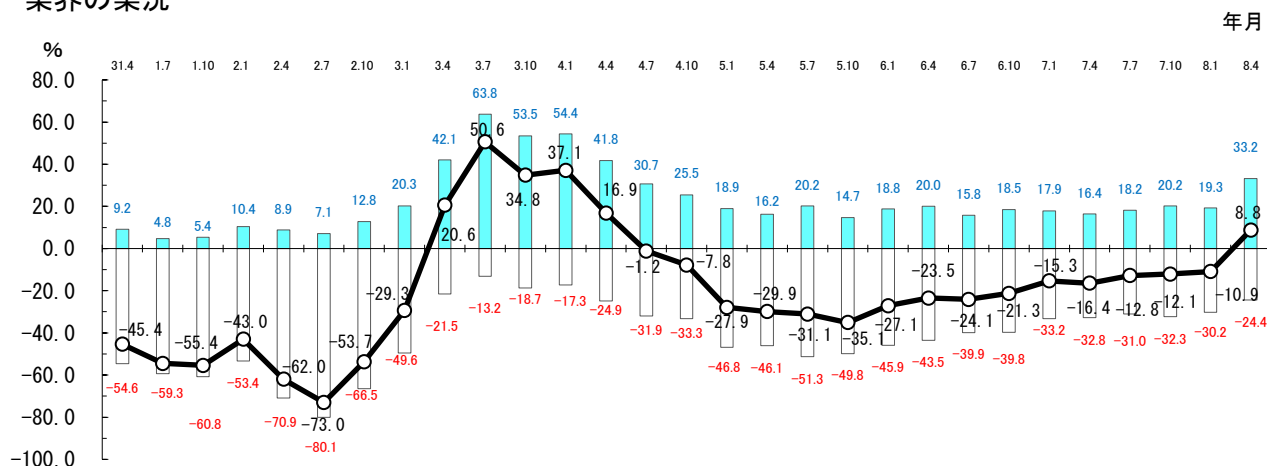
景気動向調査集計結果

(注) 棒グラフのプラス側は好転（増加、上昇）の企業の割合、マイナス側は悪化（減少、低下）の企業の割合です。
折れ線グラフ（D I）は好転（増加、上昇）の企業の割合から悪化（減少、低下）の企業の割合を引いた差です。

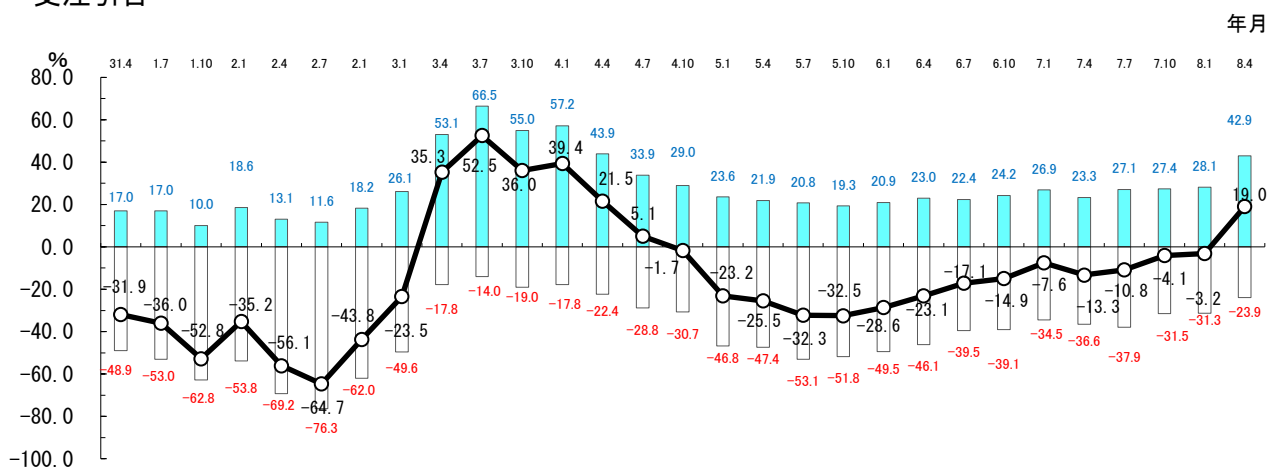
1 製造業

(1) 前年同期に比べて

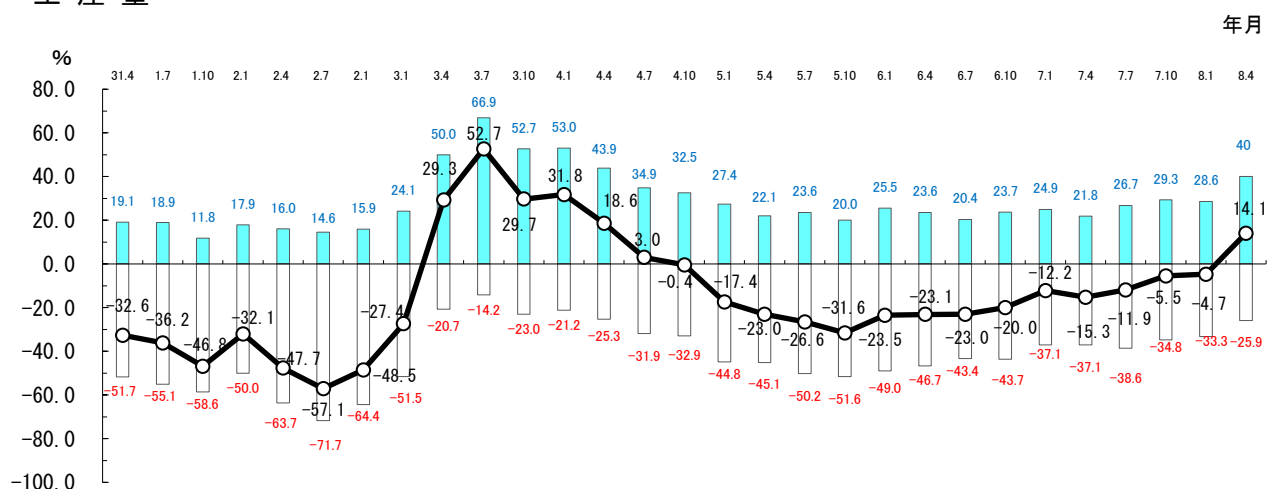
業界の業況



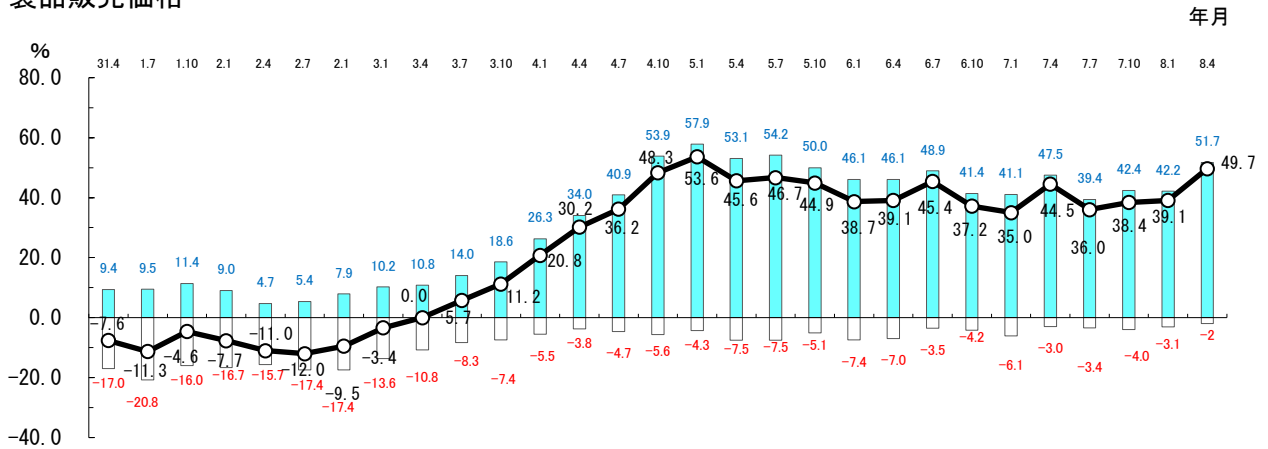
受注引合



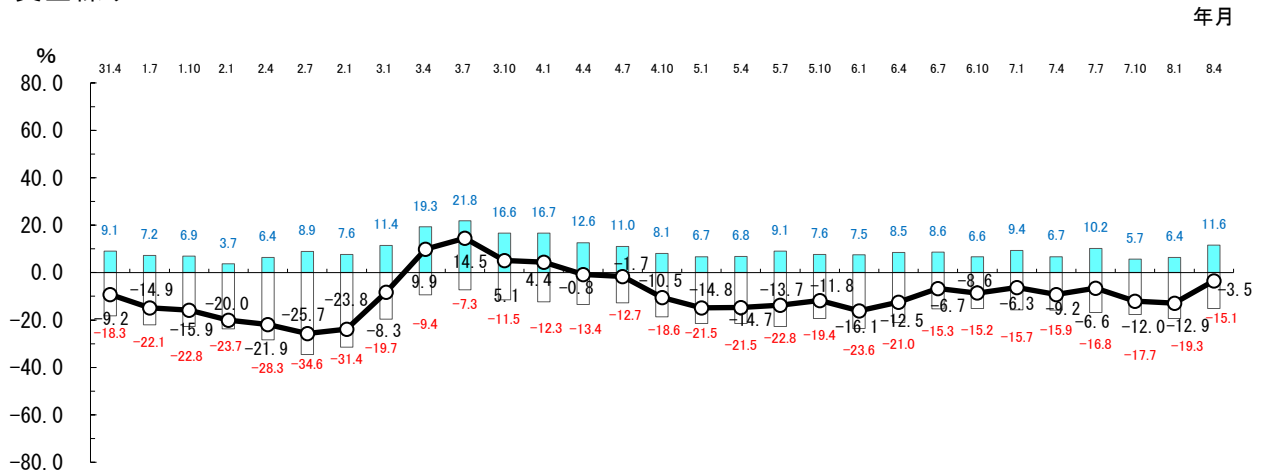
生産量



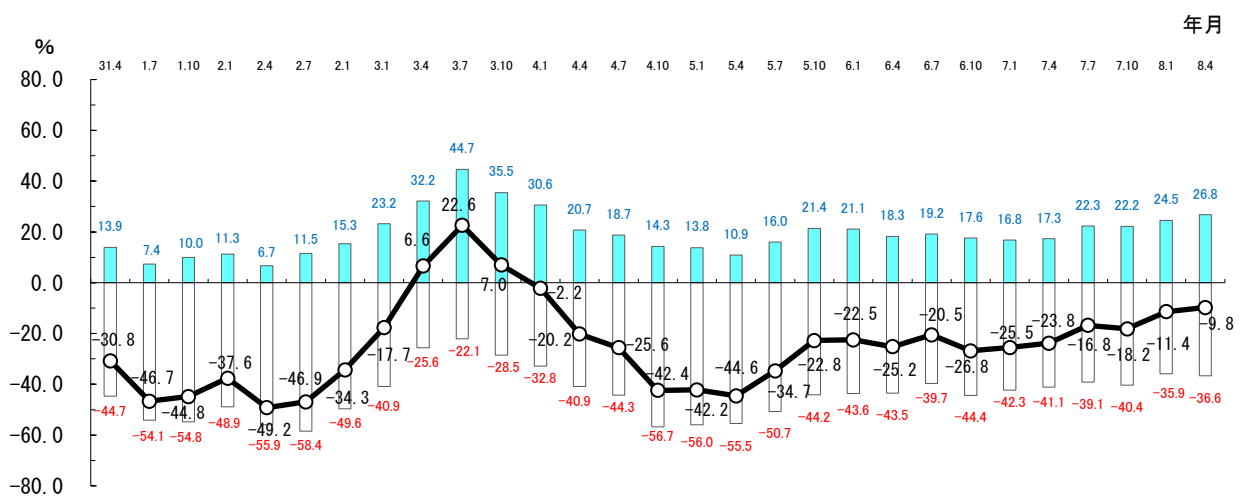
製品販売価格



資金繰り

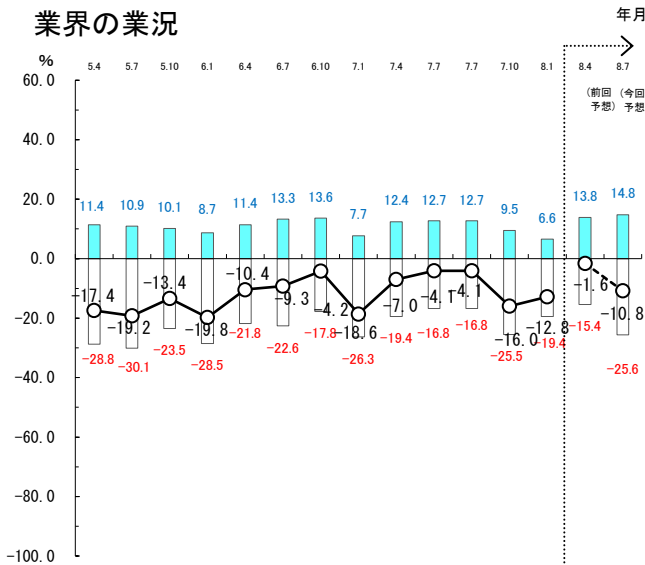


収益率

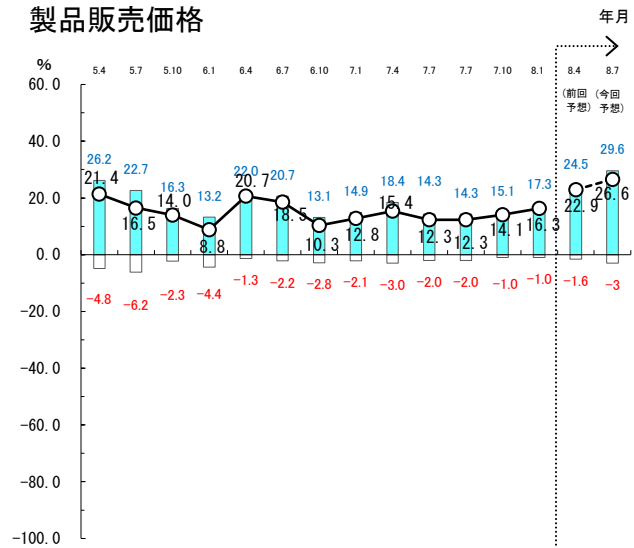


(2) 3か月前に比べて及び3か月後の予想

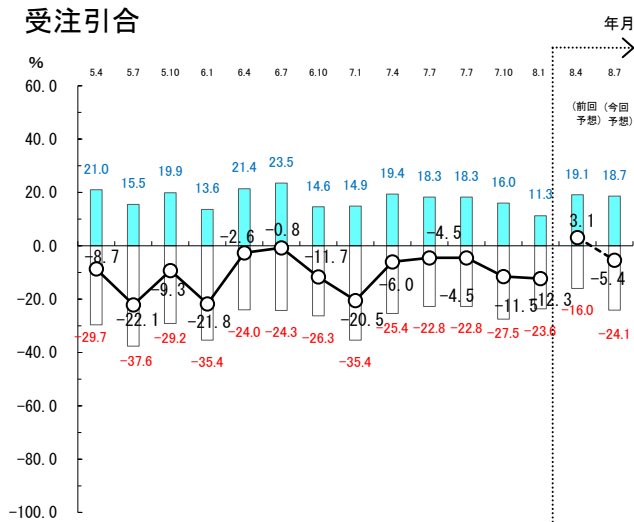
業界の業況



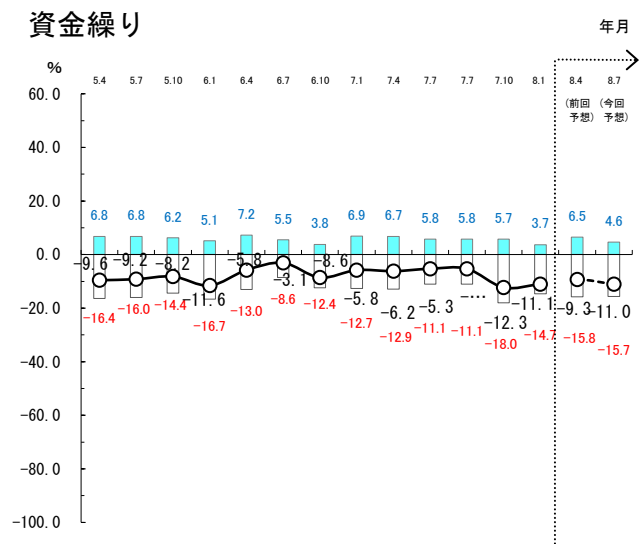
製品販売価格



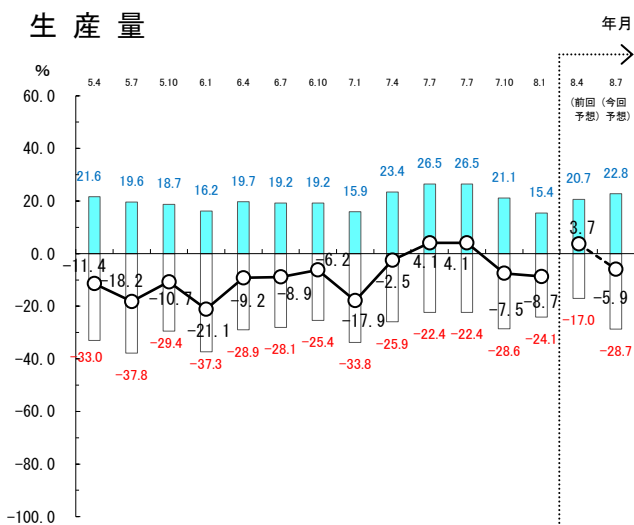
受注引合



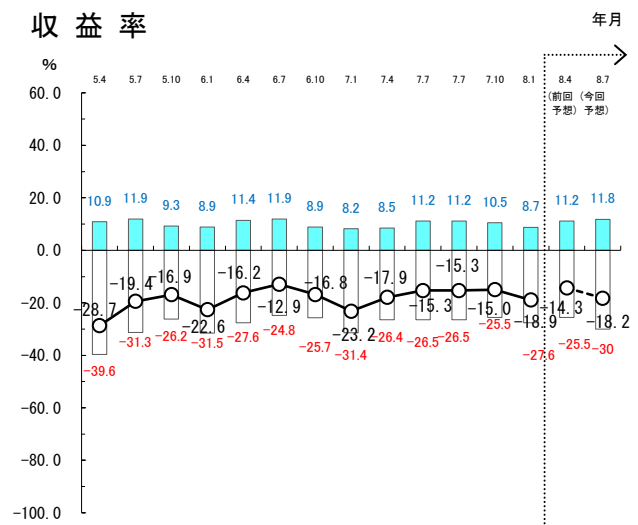
資金繰り



生産量



収益率



3 非製造業

【総論】

非製造業の業況は、国内客を中心とした観光需要に一定の底堅さがみられることや、DX化、省力化に向けたIT投資需要が堅調であることなどを背景に、宿泊業、情報サービス業でプラス水準となりました。一方で、中東情勢の影響による物価高騰等を背景に、原材料費やエネルギーコスト、人件費の上昇による経費増加が続き、建設業、卸売業、飲食業で業況が悪化し、非製造業全体では4期連続でマイナス水準となりました。

【業界の業況】

(1) 業界の業況

前年同期（令和7年4月）と比較したDIは $\Delta 19.7$ となり、前回調査時（令和8年1月）の $\Delta 18.7$ より1.0ポイント悪化し、4期連続のマイナス水準となりました。

3か月前（令和8年1月）と比較したDIは $\Delta 8.1$ となり、前回調査時の $\Delta 26.6$ より18.5ポイント改善しましたが、4期連続のマイナス水準となりました。

3か月後（令和8年7月）の予想DIは $\Delta 30.4$ と、現状からの悪化が見込まれています。

(2) 各業種の動き

ア 建設業

中東情勢を含む外部環境の影響による資材価格の高騰などを要因とし、マイナス水準となりました。売上高DIや受注件数DI、収益率DIには改善の動きが見られるものの、業況DIについては $\Delta 25.0$ と前回（ $\Delta 20.0$ ）から悪化し、引き続きマイナス水準となりました。

3か月後の業況DIは $\Delta 57.6$ と、資材不足や工期遅れ発生の懸念から、現状からの悪化が見込まれています。

イ 情報サービス業

DX需要を中心に、AI活用の動きも一部にみられる中、省力化に向けたIT投資が堅調であることから、売上高DI、収益率DIともに改善が見られ、プラス水準となりました。業況DIについては12.5と前回（30.0）より悪化したものの、7期連続でプラス水準を維持しました。

3か月後の業況DIは $\Delta 14.3$ と、現状からの更なる悪化が見込まれているものの、売上高DI、収益率DIは底堅く推移する見通しです。

ウ 小売業

商品価格の上昇を背景に客単価の上昇が一部でみられたものの、顧客や買い上げ点数の減少などが影響し、百貨店、総合スーパー、衣料品専門店、住関連専門店、その他小売店における売上高DIはいずれもマイナス水準となりました。加えて、人件費や修繕費などの経費増加により、収益率DIは多くの業態でマイナス水準となりました。一方で全体の売上高DIには改善の動きが見られ、業況DIは $\Delta 20.2$ と前回（ $\Delta 29.1$ ）から改善したものの、11期連続でマイナス水準となりました。

3か月後の業況DIは $\Delta 27.3$ と、現状からの悪化が見込まれています。

エ 卸売業

中東情勢などの影響による原材料価格の高騰や、一部資材の調達難による仕入環境の不安定化などにより、売上高D I、取引先数D I、収益率D Iいずれも悪化し、マイナス水準となりました。この結果、業況D Iは $\Delta 17.4$ と前回(18.8)から悪化し、2期ぶりにマイナス水準となりました。

3か月後の業況D Iは $\Delta 26.1$ と、中東情勢長期化への懸念から、現状からの悪化が見込まれています。

オ 飲食業

物価高騰による消費マインドの低下などにより、売上高D I、客数D Iともに悪化したことに加え、原材料価格や包装資材の高騰に伴う経費増により、収益率D Iも悪化しました。この結果、業況D Iは $\Delta 42.1$ と前回($\Delta 22.7$)より悪化し、3期連続でマイナス水準となりました。

3か月後の業況D Iは、 $\Delta 29.5$ と、現状からの悪化が見込まれています。

カ 宿泊業

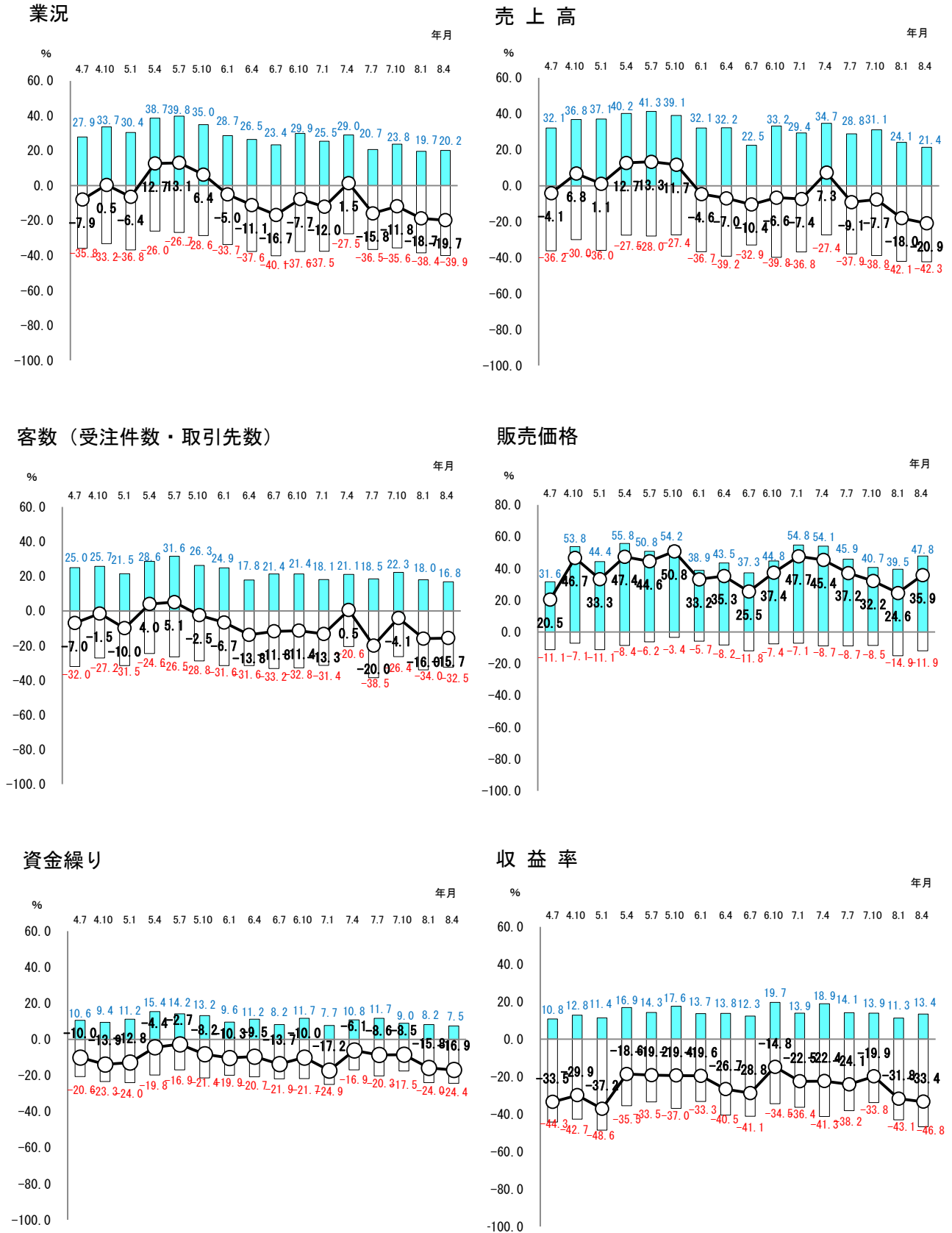
中国人観光客の減少やエネルギーコスト、食材費の上昇を背景に客数D I、収益率D Iともに悪化したものの、国内客を中心とした観光需要により客室稼働は底堅く、売上高D Iは改善しました。業況D Iは7.7と前回($\Delta 8.4$)から改善し、2期ぶりにプラス水準となりました。

3か月後の業況D Iは0.0と、現状からの改善が見込まれています。

2 非製造業

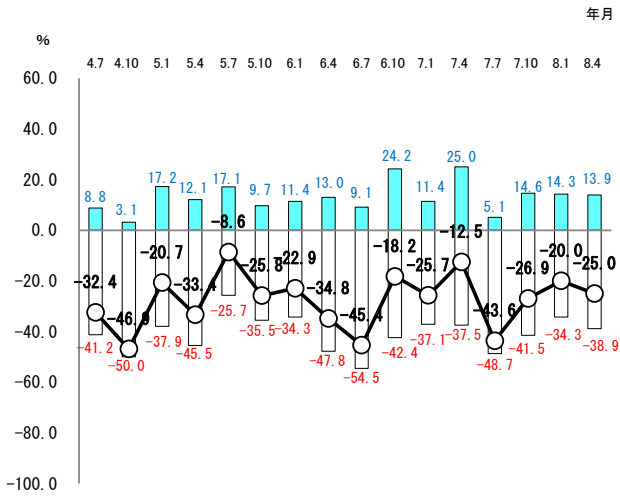
非製造業全体

(1) 前年同期に比べて

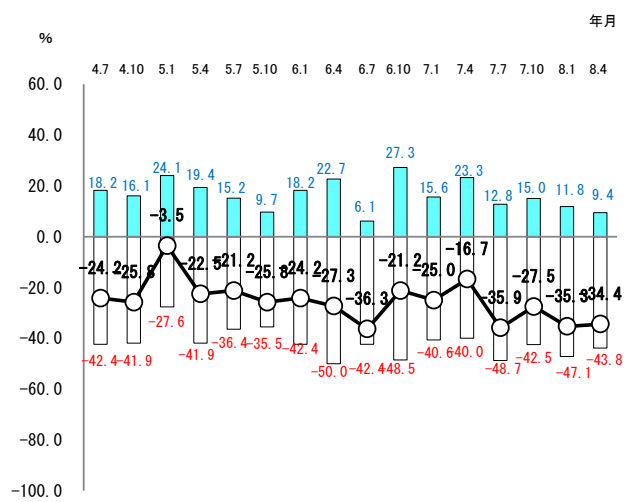


ア 建設業

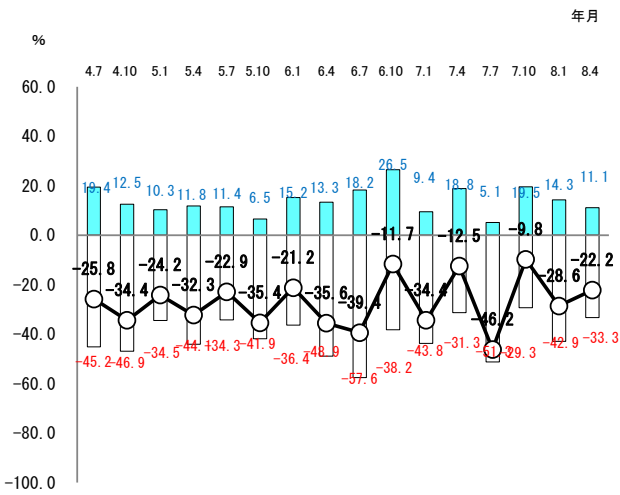
業況



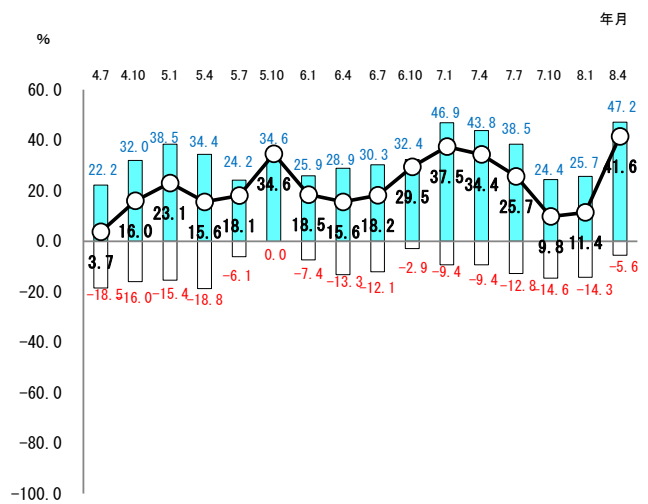
売上高



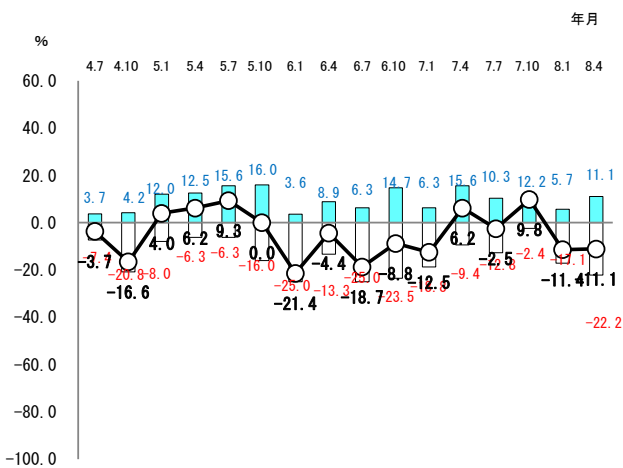
客数 (受注件数)



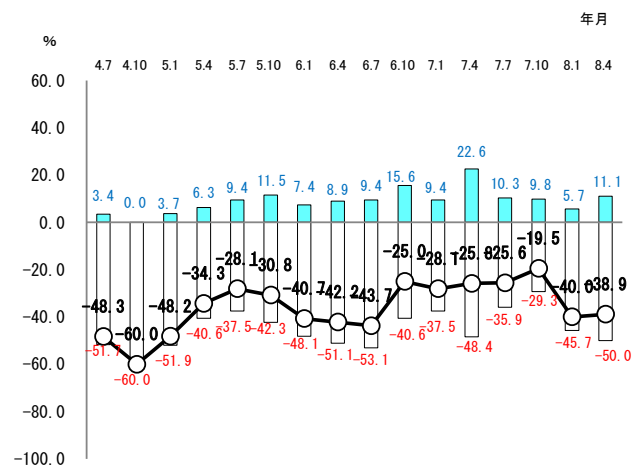
販売価格



資金繰り

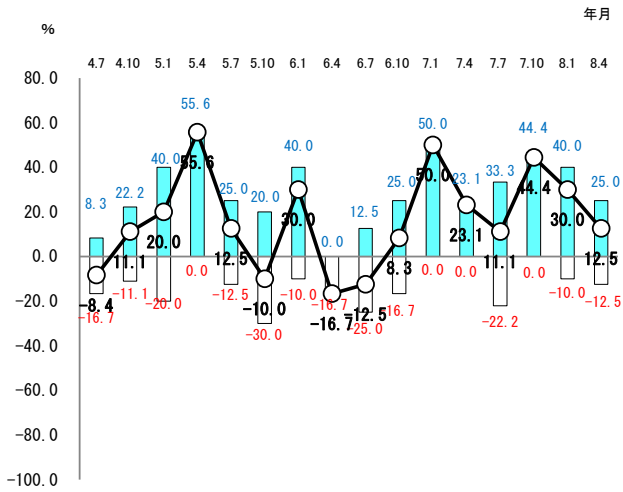


収益率

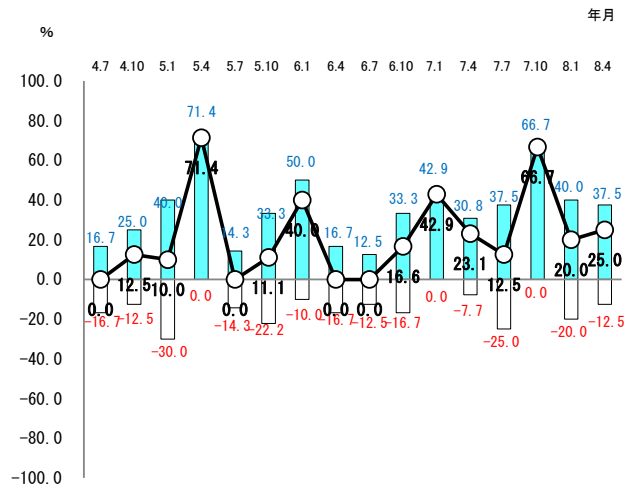


イ 情報サービス業

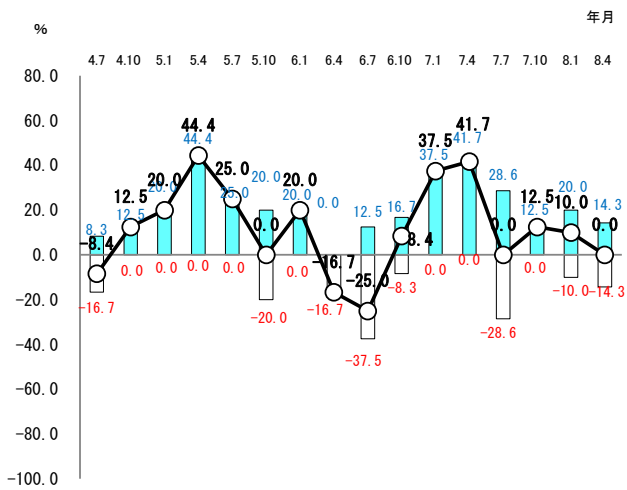
業況



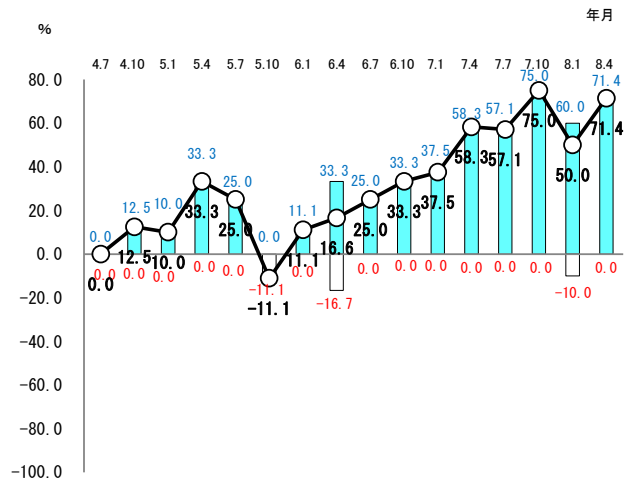
売上高



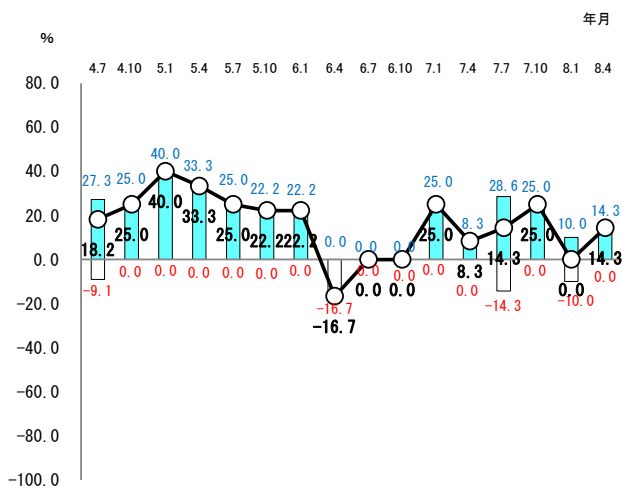
客数 (受注件数)



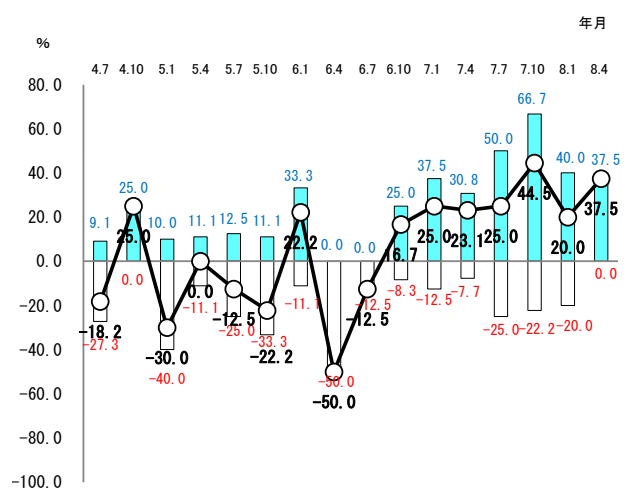
販売価格



資金繰り

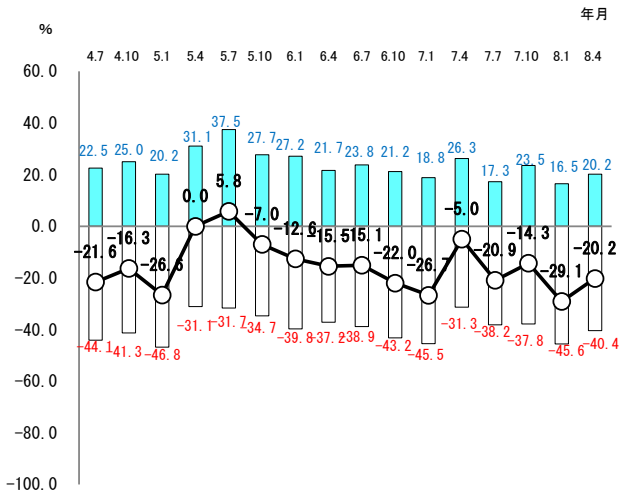


収益率

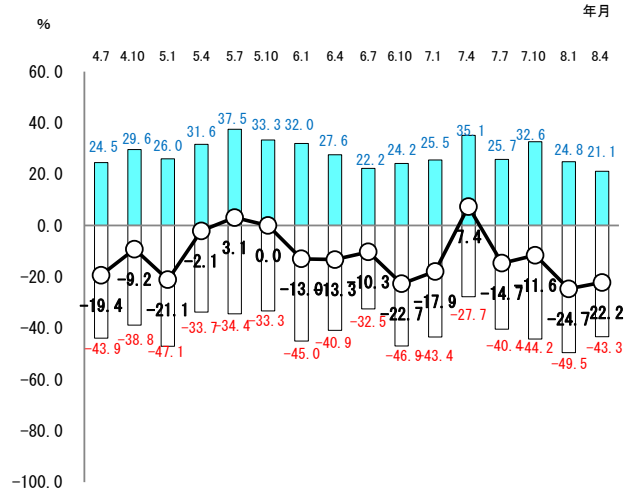


ウ 小売業

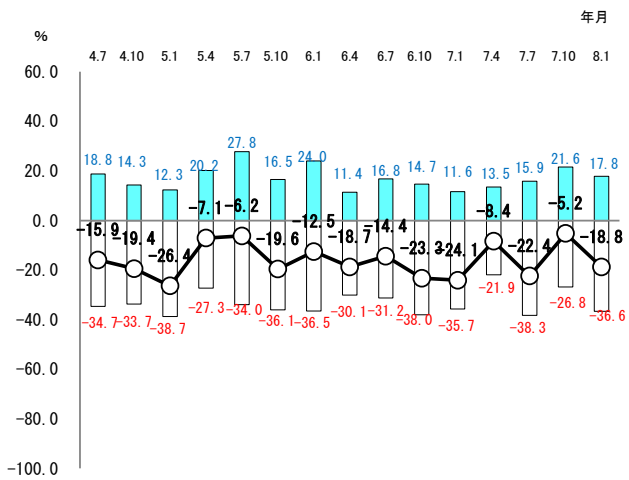
業況



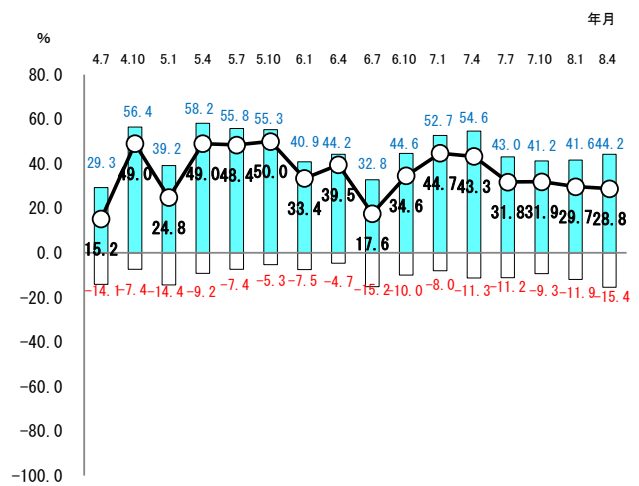
売上高



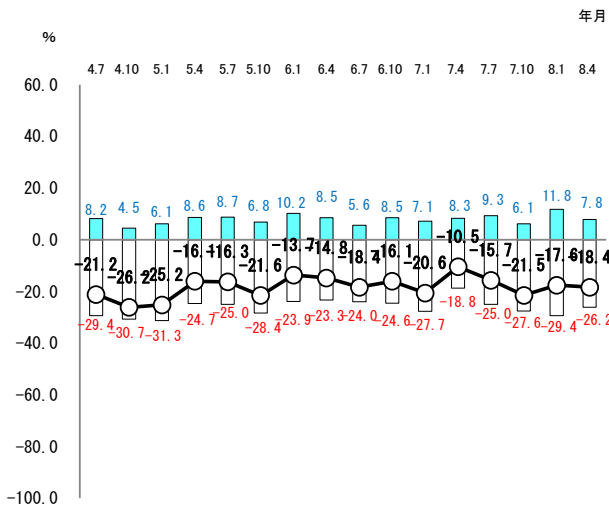
客数



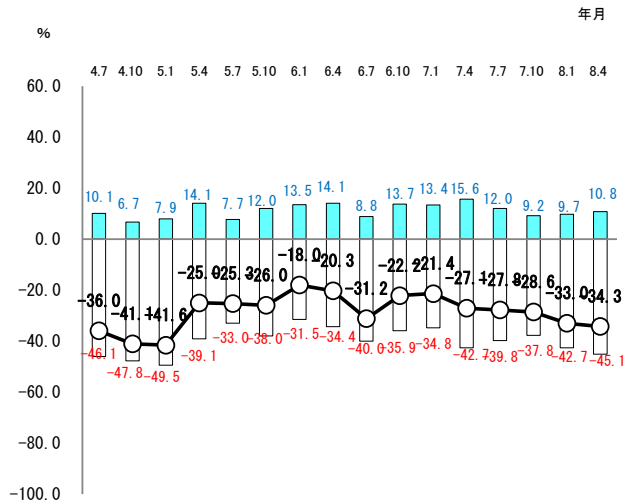
販売価格



資金繰り

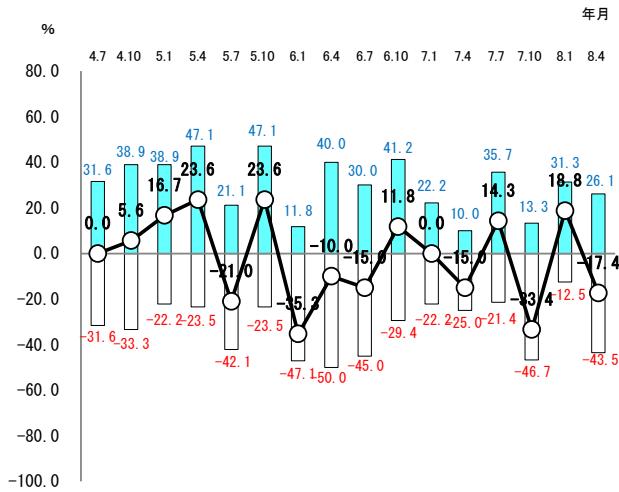


収益率

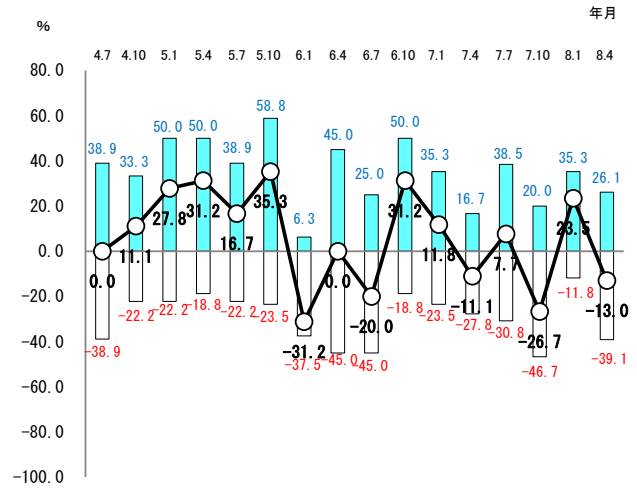


工 卸売業

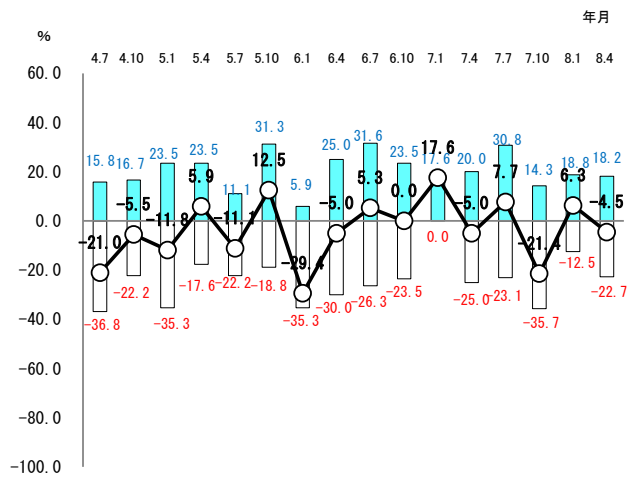
業況



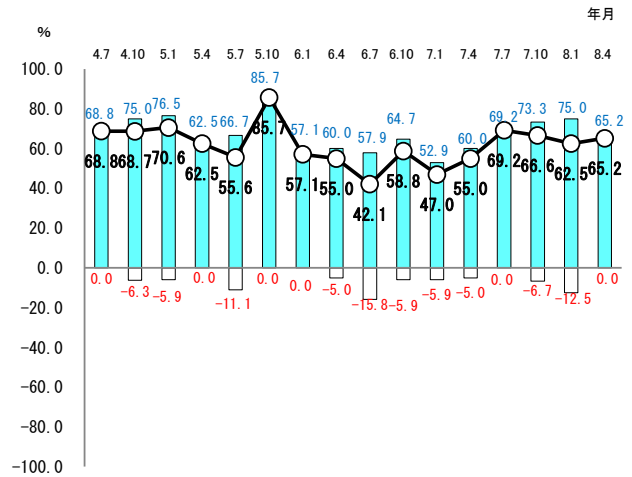
売上高



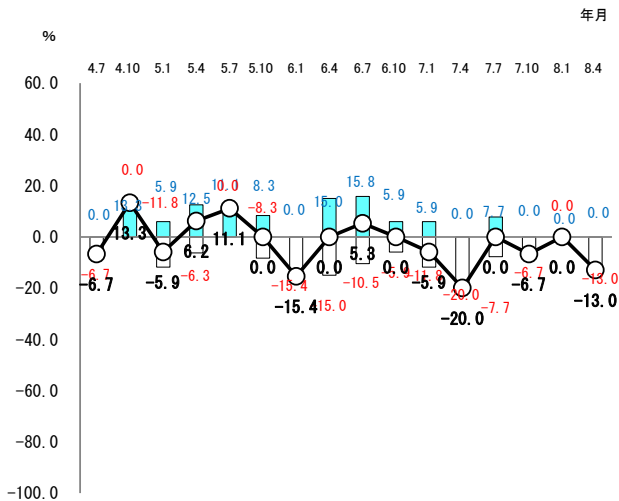
客数 (取引先数)



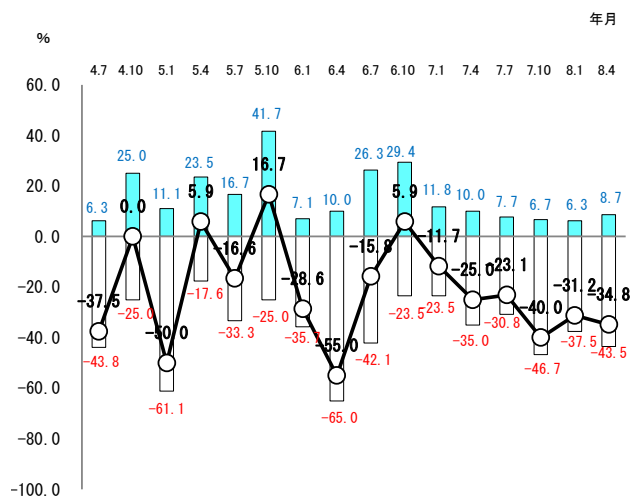
販売価格



資金繰り

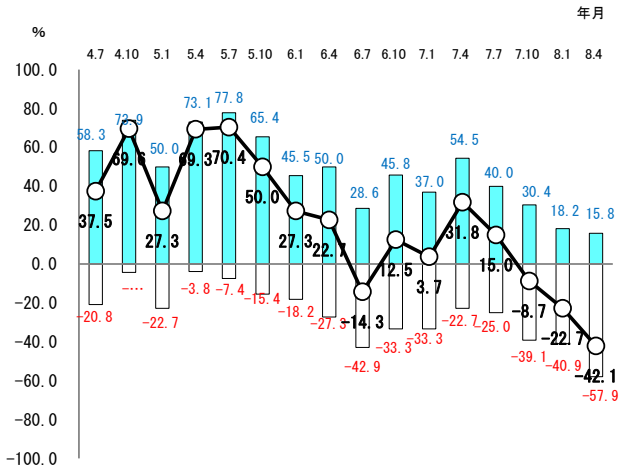


収益率

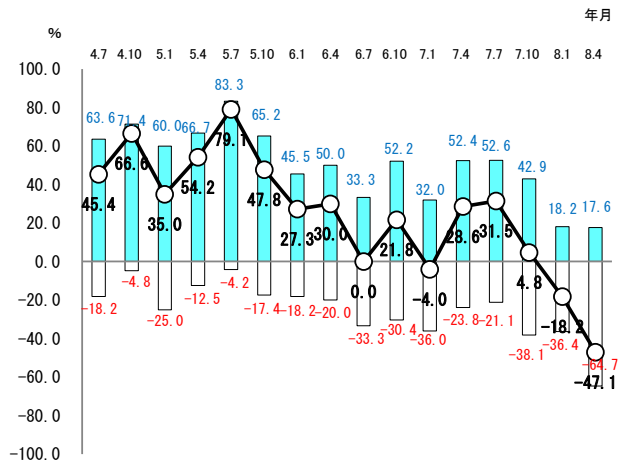


才 飲食業

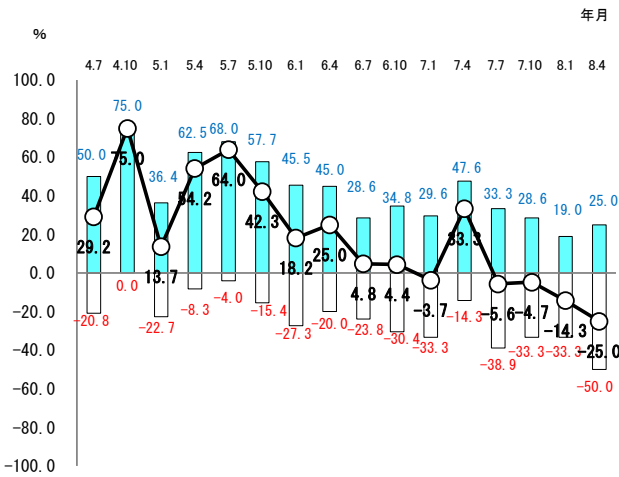
業況



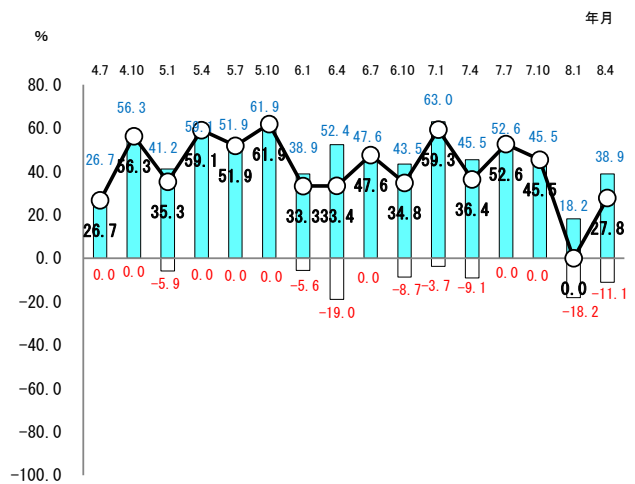
売上高



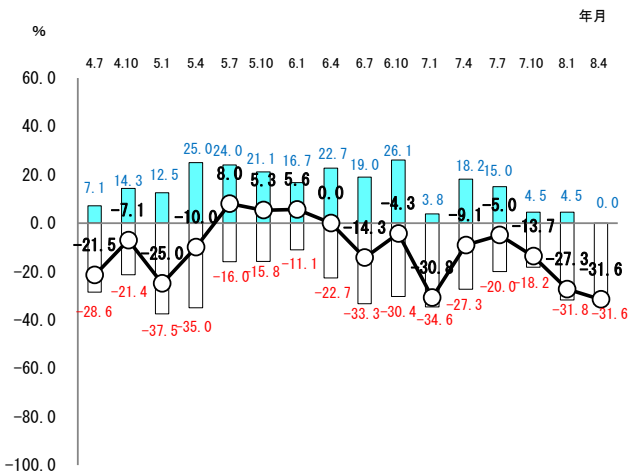
客数



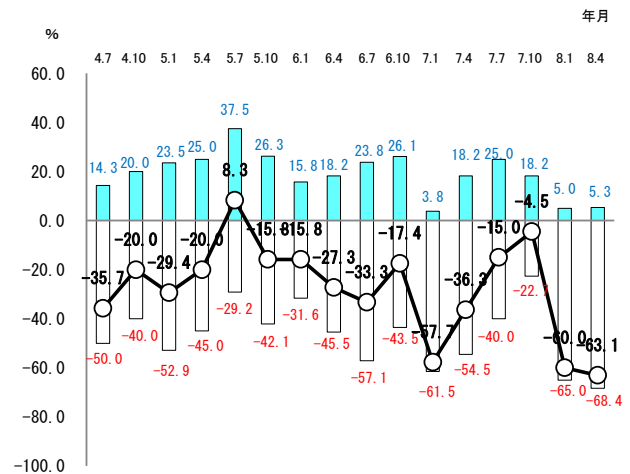
販売価格



資金繰り

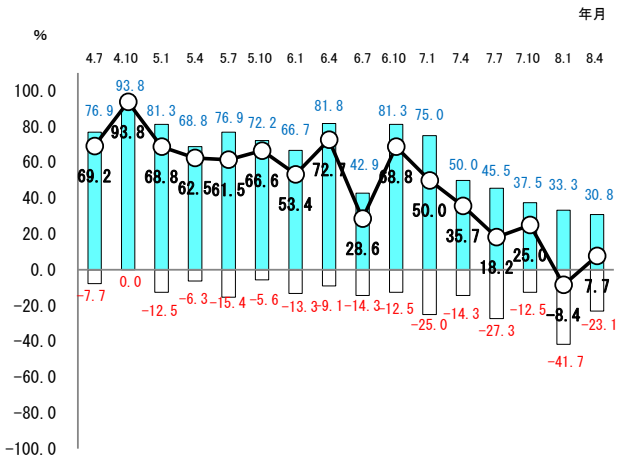


収益率

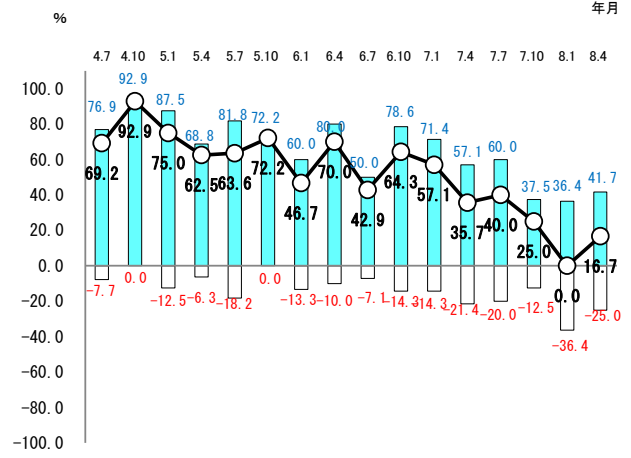


力 宿泊業

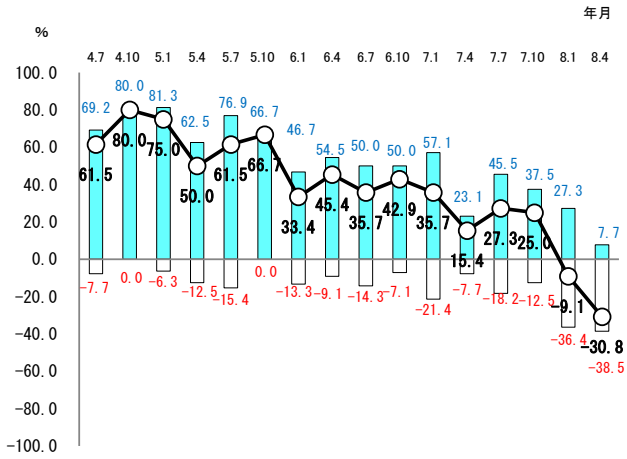
業況



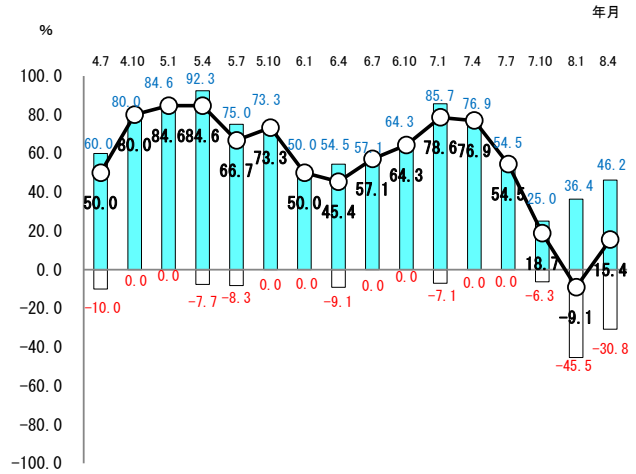
売上高



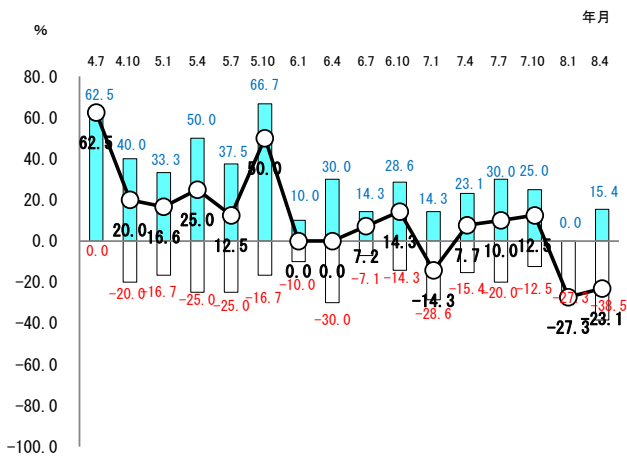
客数



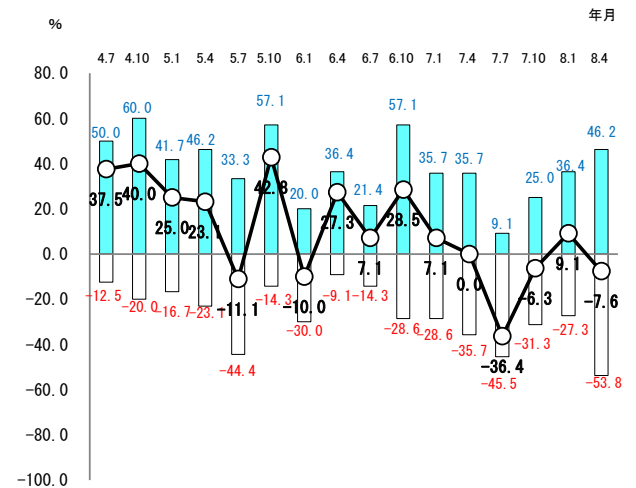
販売価格



資金繰り

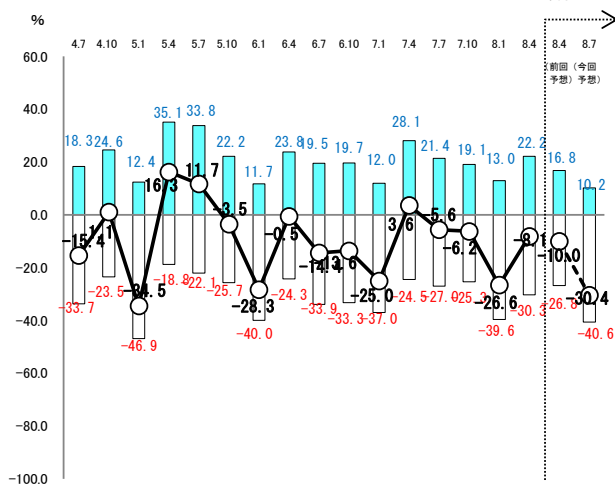


収益率

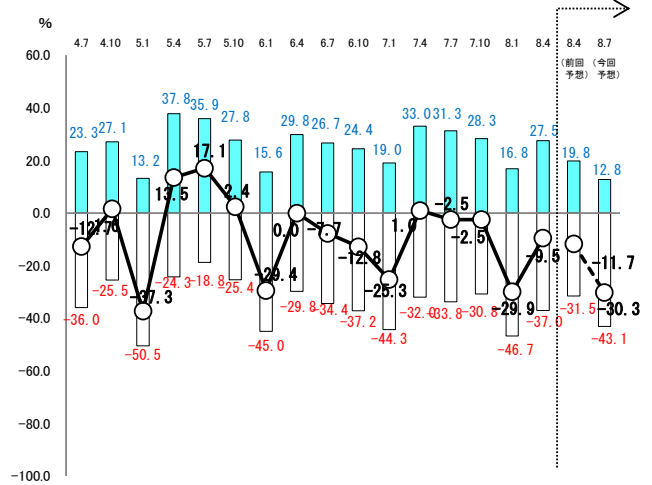


(2) 3か月前に比べて及び3か月後の予想
非製造業全体

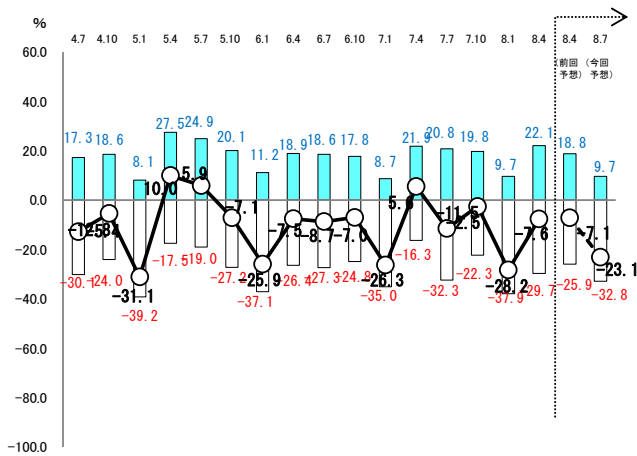
業況



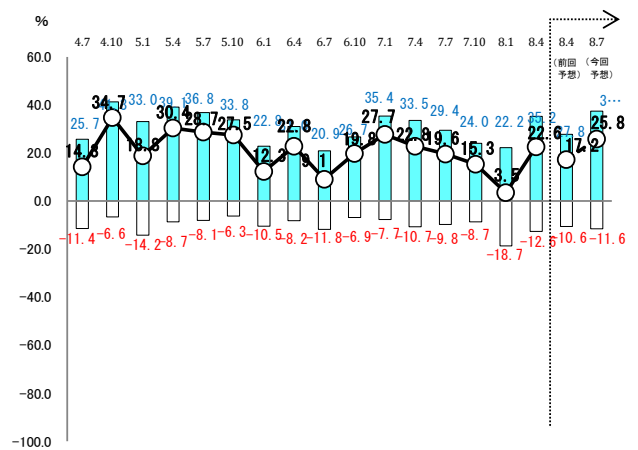
売上高



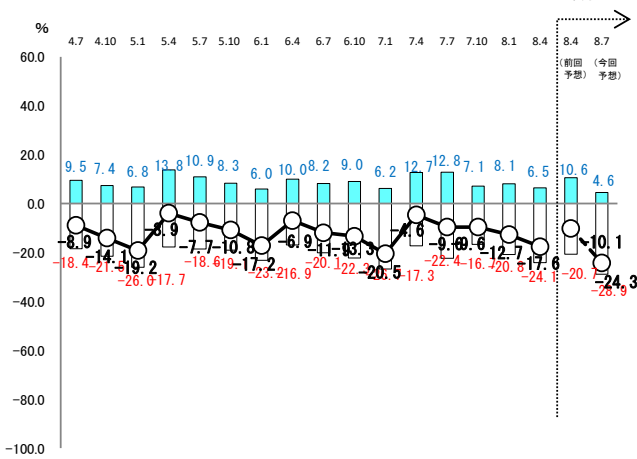
客数 (受件数・取引先数)



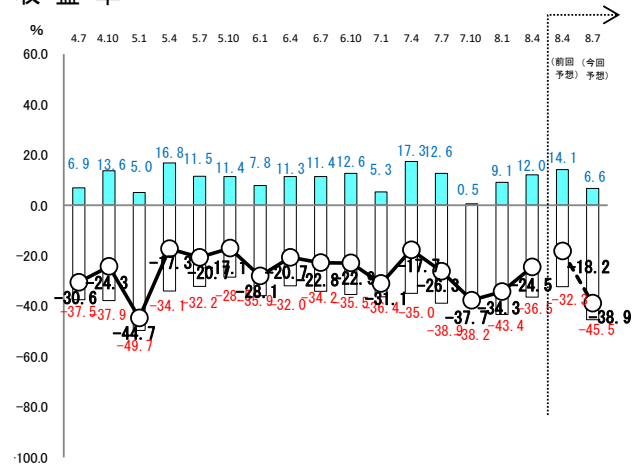
販売価格



資金繰り

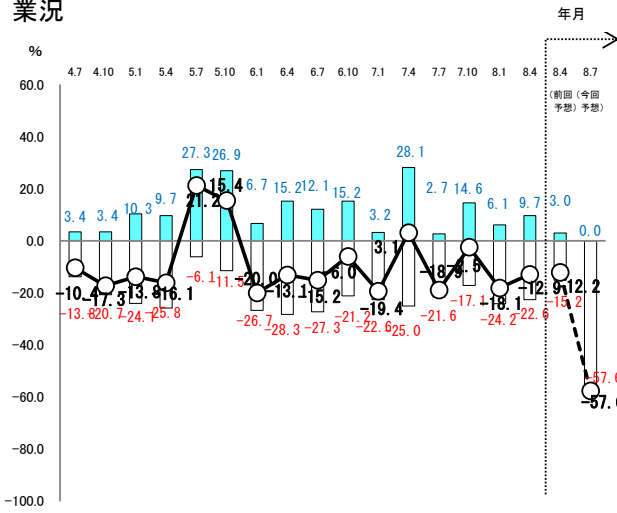


収益率

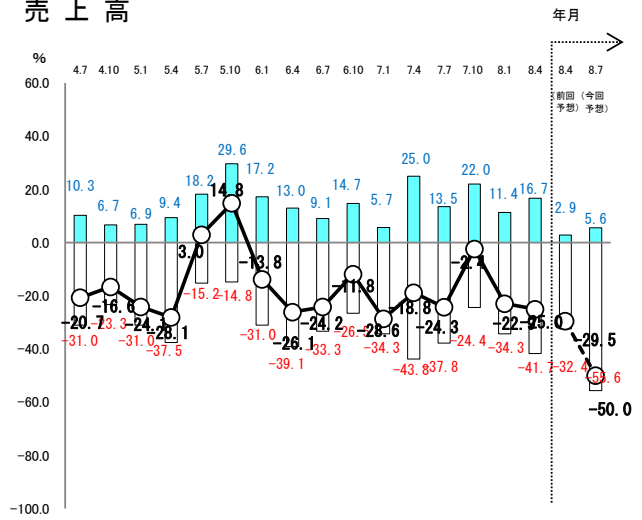


ア 建設業

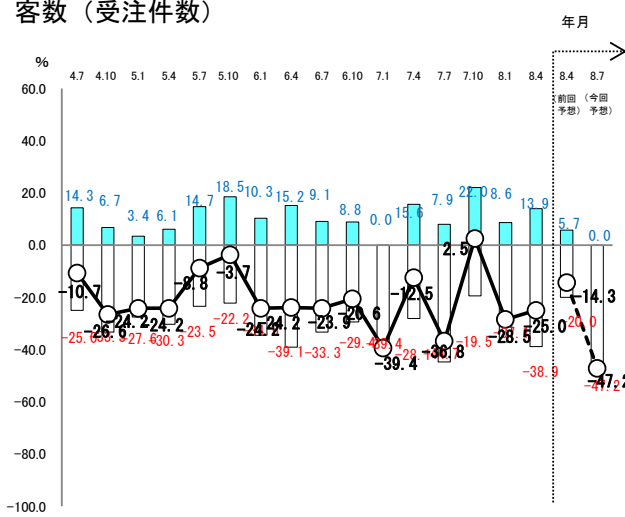
業況



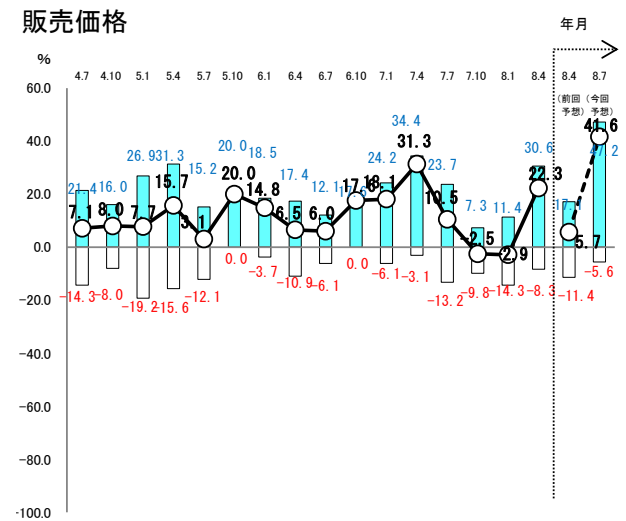
売上高



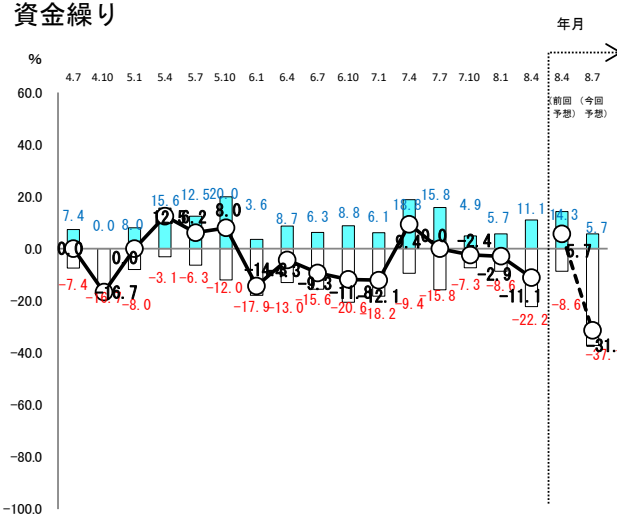
客数 (受注件数)



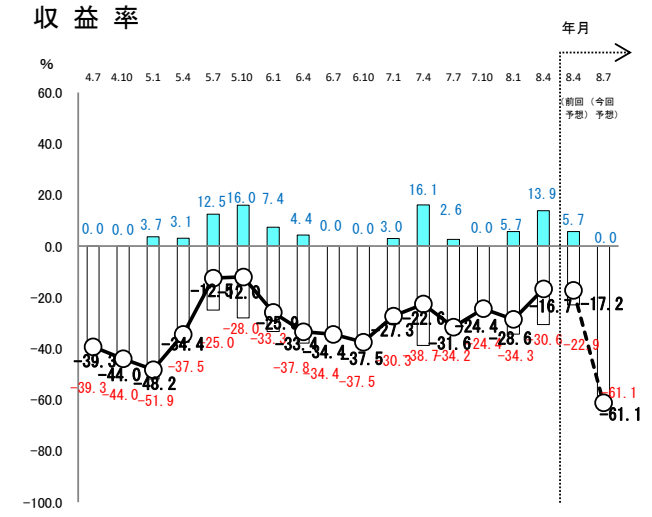
販売価格



資金繰り

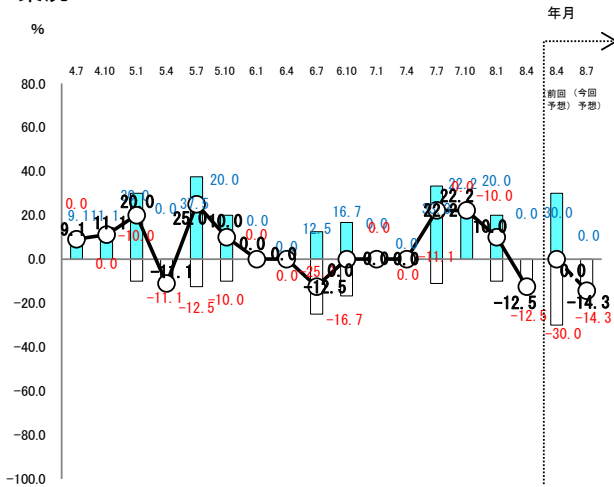


収益率

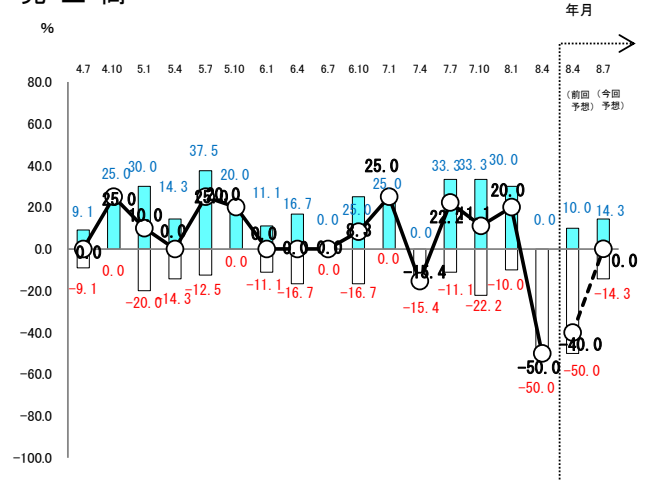


イ 情報サービス業

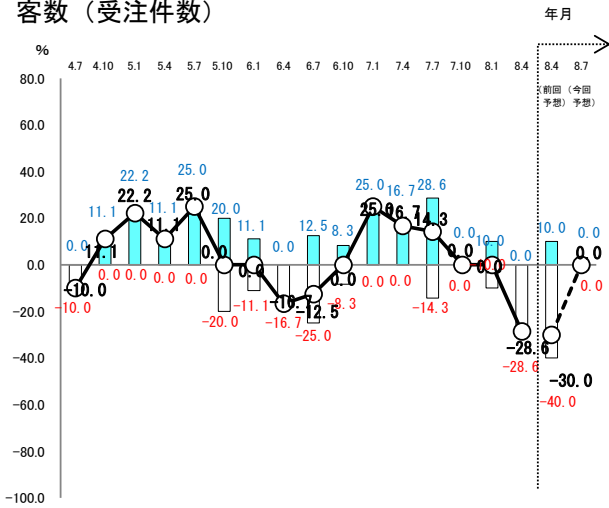
業況



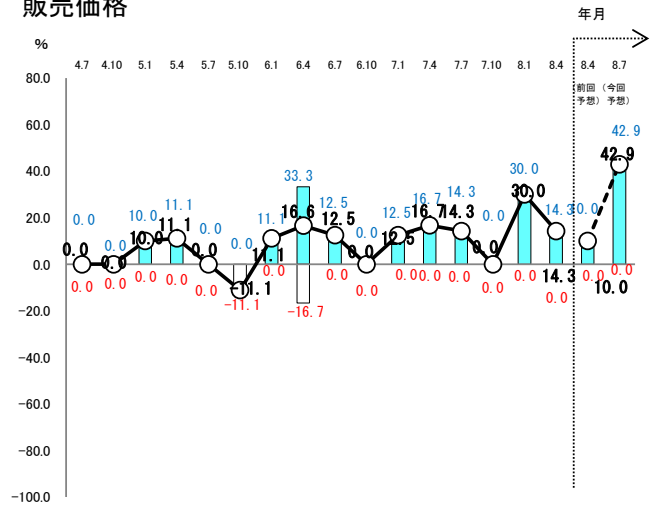
売上高



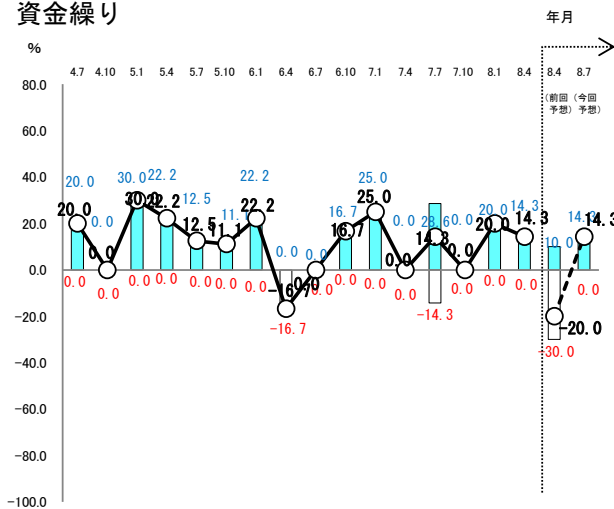
客数 (受注件数)



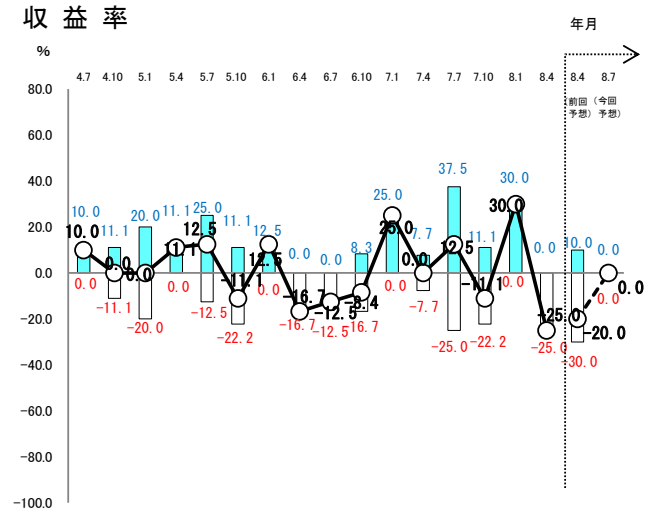
販売価格



資金繰り

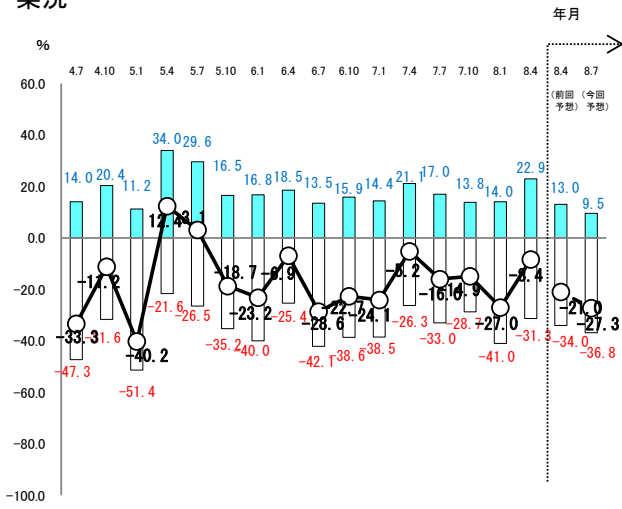


収益率

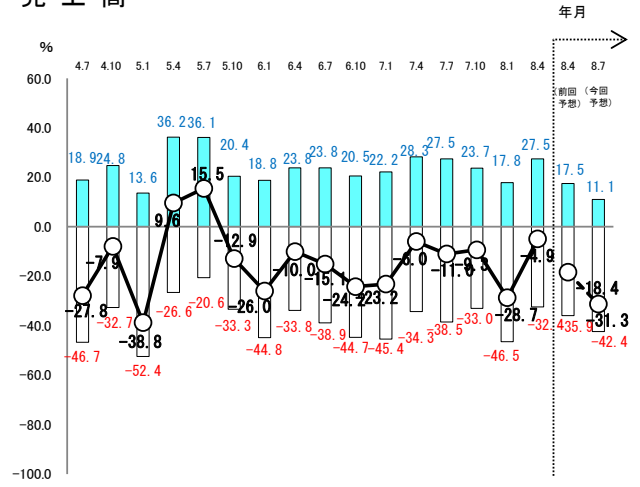


ウ 小売業

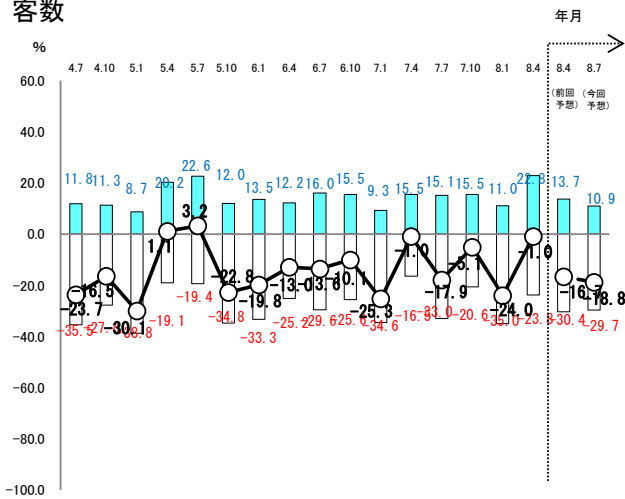
業況



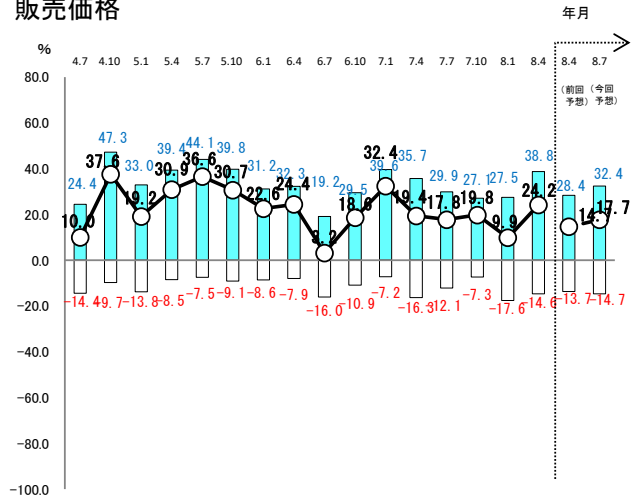
売上高



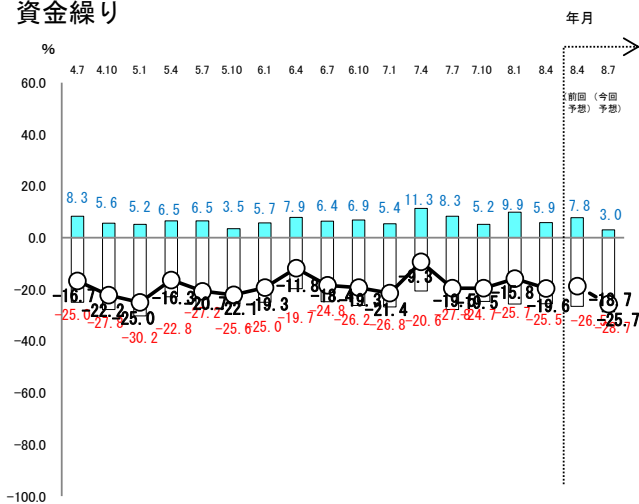
客数



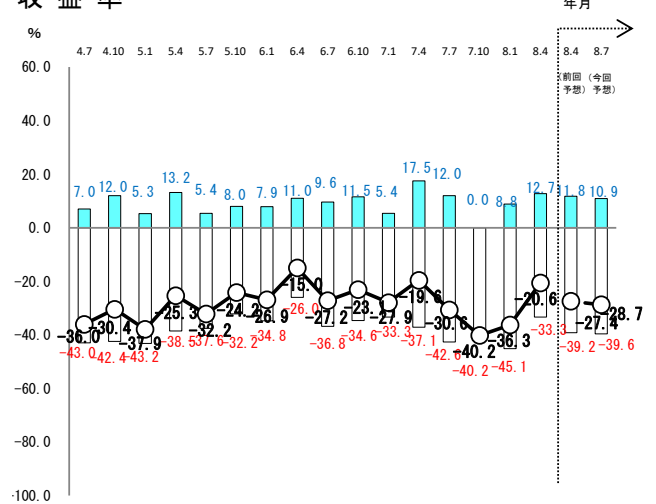
販売価格



資金繰り

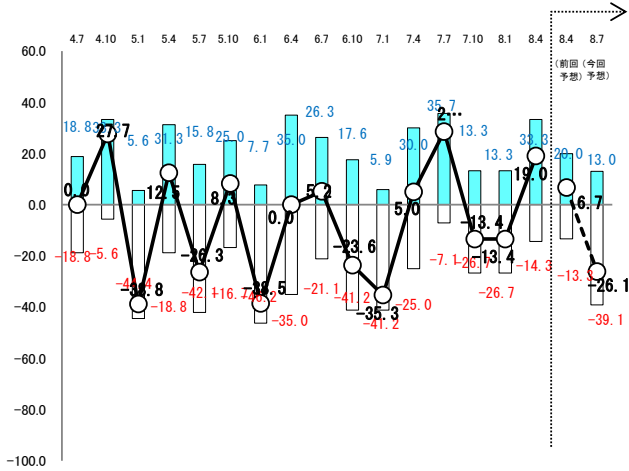


収益率

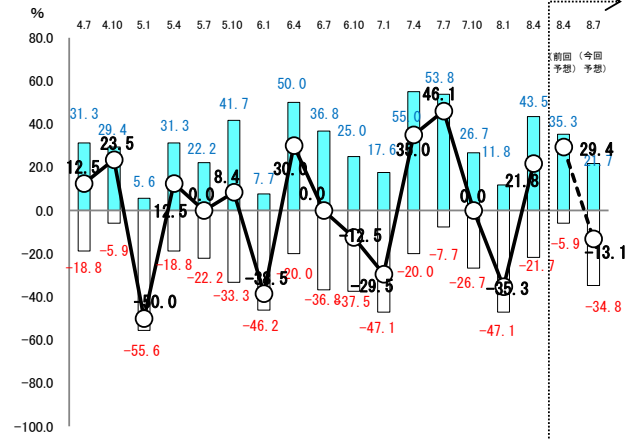


工 卸売業

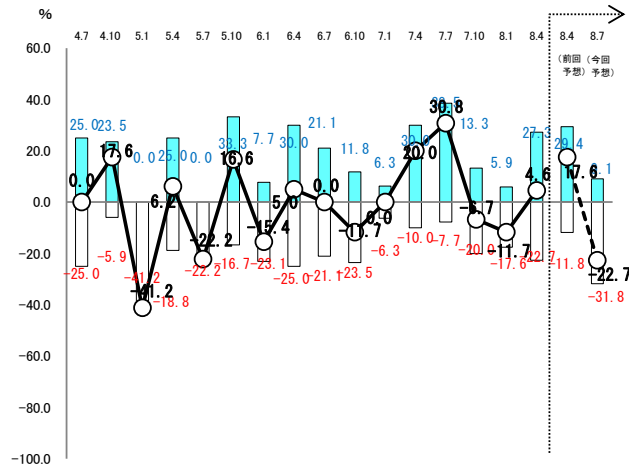
業況



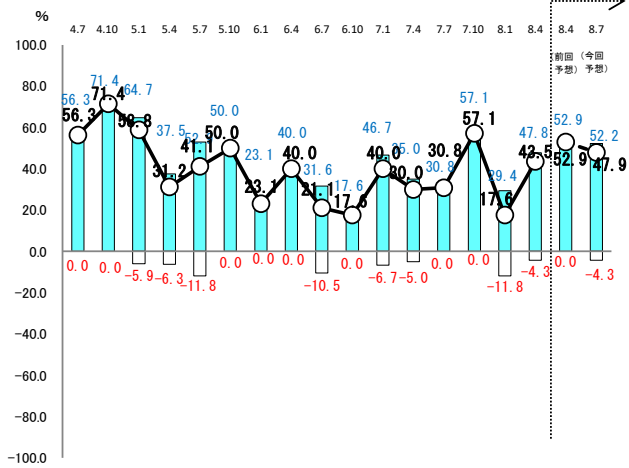
売上高



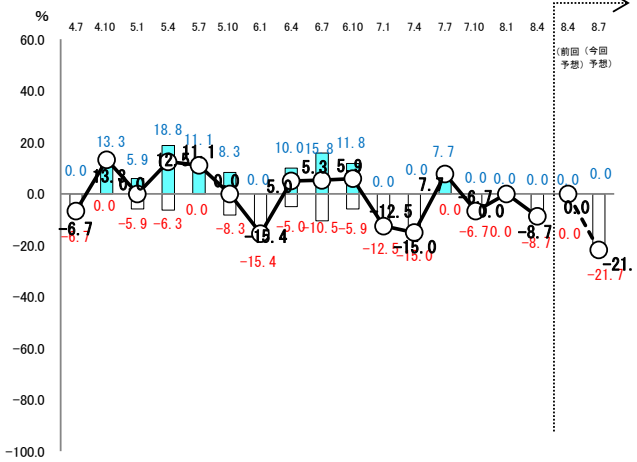
客数 (取引先数)



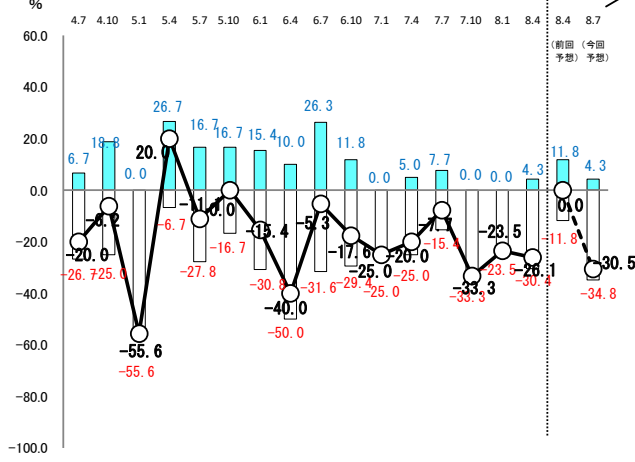
販売価格



資金繰り

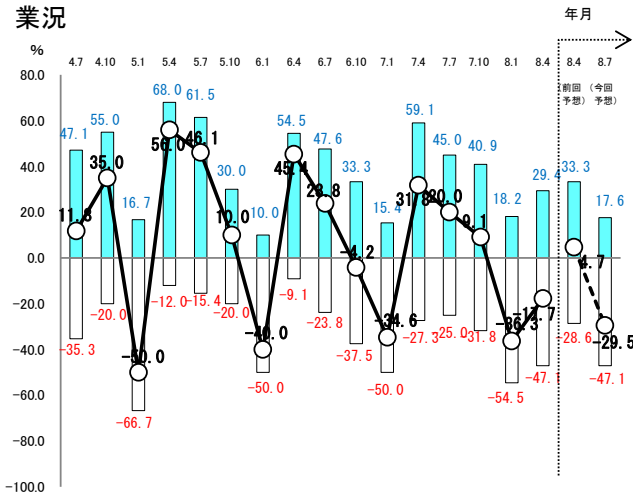


収益率

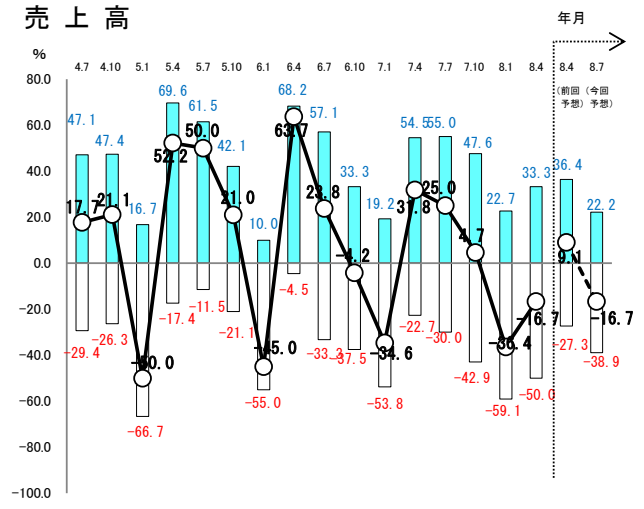


才 飲食業

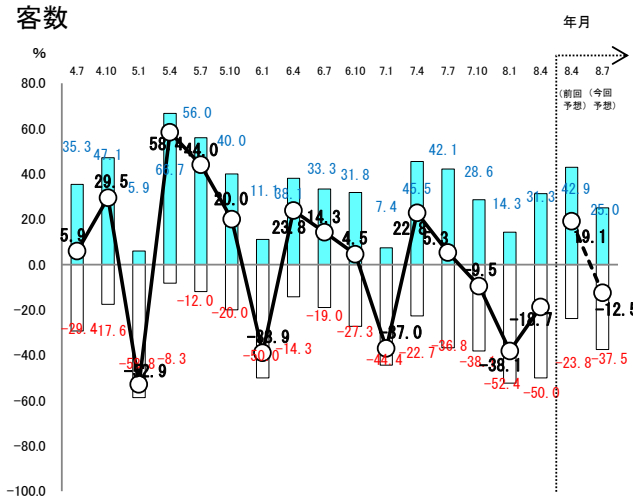
業況



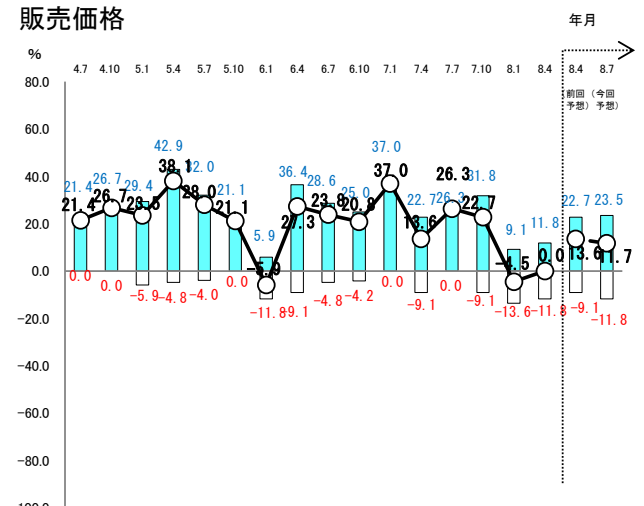
売上高



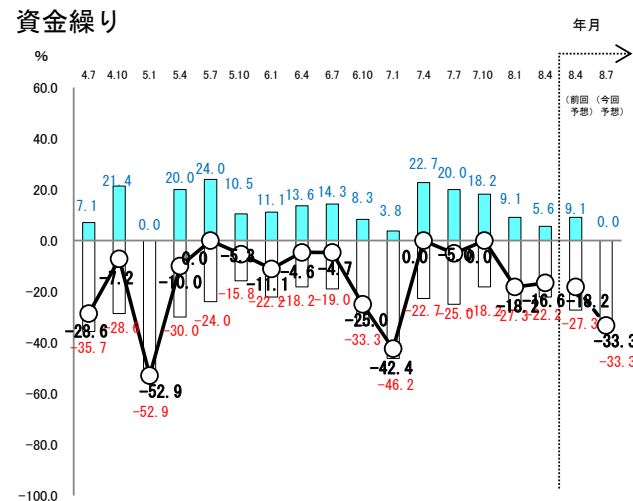
容数



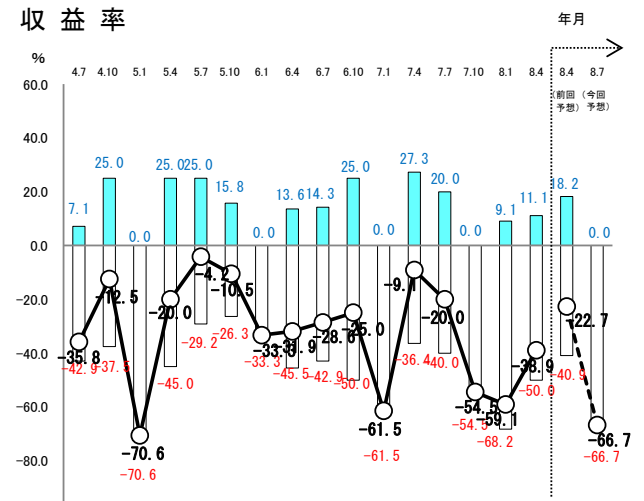
販売価格



資金繰り

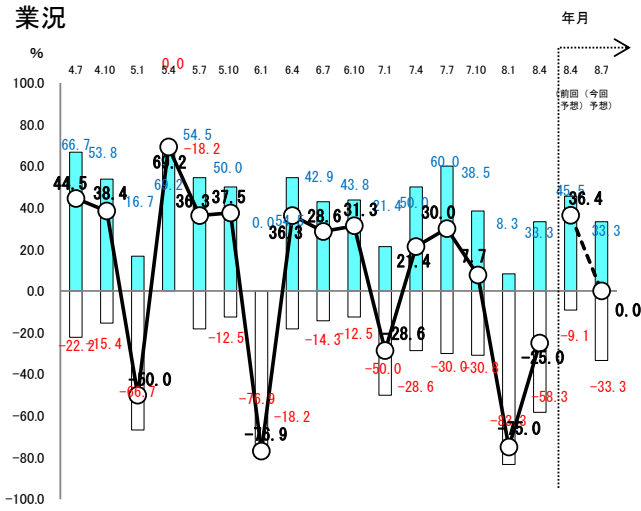


収益率

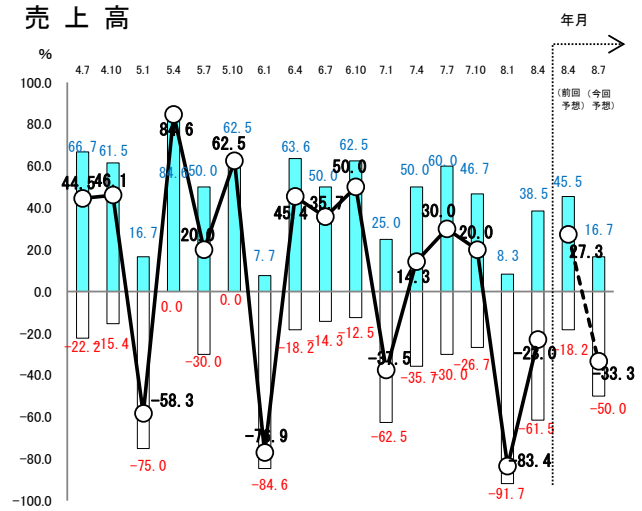


力 宿泊業

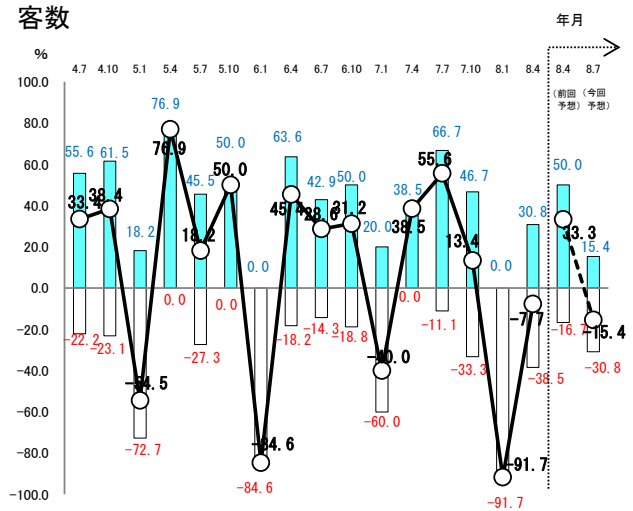
業況



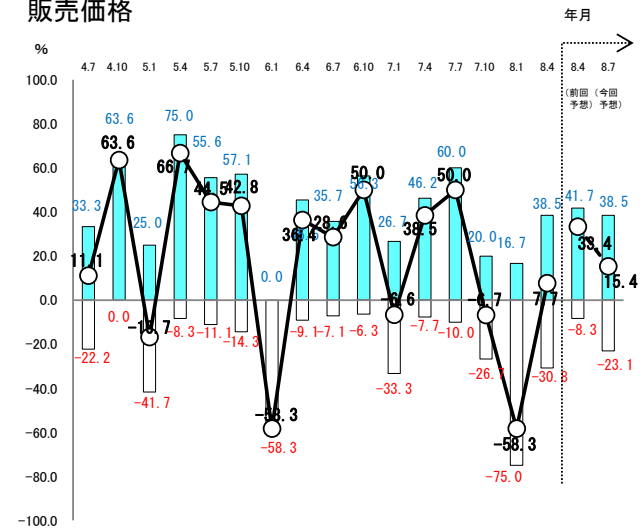
売上高



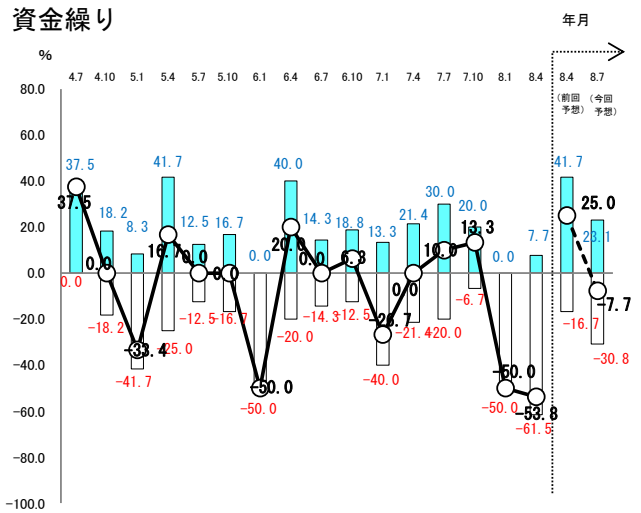
客数



販売価格



資金繰り



収益率

